

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅻ

—道明地区土地区画整理事業関連遺跡令和2年度発掘調査—

細谷地遺跡

2021.12

盛岡市・盛岡市教育委員会

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅻ

—道明地区土地区画整理事業関連遺跡令和2年度発掘調査—

細谷地遺跡

2021.12

盛岡市・盛岡市教育委員会

序

盛岡市は、東北地方の東部を南北に縦断する北上川と、その支流である雫石川・中津川が合流する地点に中心市街地が形成され、北に雄大な岩手山と姫神山を望む、岩手県の県庁所在地です。その都市骨格は、約400年前に戦国大名南部氏により築城された総石垣の盛岡城を中心とした城下町であり、藩政そして明治以降は岩手の県政の中心として、また交通の要衝として栄えてきました。

平成になると、平成4年に南の都南村と、平成18年に北の玉山村と合併。人口約30万人、面積約886平方キロメートルという北東北の拠点都市へと成長し、平成20年4月には中核市へ移行しました。平成23年に未曾有の大被害を受けた東日本大震災後、着実に復興を果たし、平成28年には「希望郷いわて国体・いわて大会」が県内各地を会場に開催され、盛岡市では冬季のスケート・アイスホッケー、本大会の水泳・サッカー・テニスのほか多くの種目の選手・役員の方々をお迎えしたところであります。

昭和の時代から盛岡市が都市として成長する中、将来の発展を見据え、既存の中心市街地の南西部、雫石川の南に広がる一帯に新市街地を形成しようと計画されたのが「盛南開発構想」です。その大部分は、独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）が事業主体となり「盛岡南新都市（愛称：ゆいとびあ盛南）」が整備され、平成25年度に事業完了しています。道明地区は、その盛岡南新都市の南東部に隣接しており、都市基盤づくりのひとつである「盛岡南地区都市開発整備事業」の一環として、施行面積21.7ヘクタールの土地区画整理事業が進められてきました。

この事業に伴い、当該区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地のうち、整備工事により消滅を余儀なくされる遺跡の発掘調査を、平成20年度から当市教育委員会が行い、野外調査は令和3年度に完了しております。

本報告書は、令和2年度に実施した細谷地遺跡の調査成果について報告するものです。市民の皆様をはじめ、各学校や教育機関・研究者等の方々に、当該地域の歴史を知るための資料としてご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なるご協力やご指導を賜りました岩手県教育委員会生涯学習文化財課、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対し深く感謝申し述べると共に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和3年12月

盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一

例 言

- 1 本書は、岩手県盛岡市本宮・向中野・飯岡新田ほかには所在する盛南地区道跡群において、「道明地区土地区画整理事業」に伴い令和2年度に実施した発掘調査の報告書である。なお、「盛南地区道跡群」の名称については、盛南開発地区内に所在する計18道跡（大宮北、小幡、宮沢、鬼柳A、本宮熊堂A、本宮熊堂B、稲荷、野古A、飯岡沢田、飯岡才川、台太郎、向中野館、細谷地、矢盛、焼野、夕覚、南仙北、向中野幅）を包括する総称として使用し、本書ではそのうち細谷地道跡の調査成果を報告する。
- 2 本書の編集及び刊行事務は盛岡市道跡の学び館が行い、編集・執筆作業を津嶋知弘が担当した。
- 3 遺構平面位置は、日本測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。
 - ・調査座標軸は、日本測地系第X系に準じる
 - ・調査座標原点 細谷地道跡 X -35,000 Y +26,000 → RX ±0 RY ±0
- 4 高さは、標高値をそのまま使用した。
- 5 出土遺物の写真撮影は、津嶋知弘が行った。
- 6 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市道跡の学び館で保管している。
- 7 当該調査の一部については、展示会・報告会により報告しているものもあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

細谷地道跡に係る発掘調査報告書（盛岡市教育委員会）

- 2009年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅱ-盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査②-稲荷道跡・本宮熊堂A道跡・本宮熊堂B道跡・野古A道跡・飯岡沢田道跡・飯岡才川道跡・向中野館道跡・細谷地道跡・矢盛道跡・南仙北道跡-」〔細谷地道跡2次〕
- 2014年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅵ-盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査③-飯岡沢田道跡・飯岡才川道跡・細谷地道跡・矢盛道跡・南仙北道跡-」〔細谷地道跡11次〕
- 2015年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅶ-盛岡南新都市開発整備事業平成19～21年度発掘調査-大宮北道跡・小幡道跡・宮沢道跡・本宮熊堂B道跡・台太郎道跡・飯岡沢田道跡・飯岡才川道跡・細谷地道跡・矢盛道跡・夕覚道跡-」〔細谷地道跡21～23次〕
- 2017年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅸ-盛岡南新都市開発整備事業平成22～24年度発掘調査②-細谷地道跡・矢盛道跡・焼野道跡-」〔細谷地28・31次〕
- 2018年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅹ-道明地区土地区画整理事業関連道跡平成20～26年度発掘調査-細谷地道跡・夕覚道跡-」〔細谷地29・30・32～34次〕
- 2019年2月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅺ-道明地区土地区画整理事業関連道跡平成27・28年度発掘調査-細谷地道跡-」〔細谷地35・36次〕
- 2020年2月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅻ-道明地区土地区画整理事業関連道跡平成29年度発掘調査-細谷地道跡-」〔細谷地37次〕
- 2021年1月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅼ-道明地区土地区画整理事業関連道跡平成30・令和元年度発掘調査-細谷地道跡-」〔細谷地38～40次〕

目次

第1章 経過

第1節 事業の経過	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 体制	4

第2章 遺跡群の位置と環境

第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6

第3章 調査成果

第1節 細谷地遺跡の立地と概要	8
第2節 調査内容	
(1) 第41次調査（令和2年度）	8

第4章 総括

1 調査のまとめ	9
2 細谷地遺跡第41次調査出土の近現代遺物	9

写真図版

報告書抄録

表 目 次

第1表	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶観察表(1)	20
第2表	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶観察表(2)	21
第3表	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶観察表(3)	22

図 目 次

第1図	細谷地遺跡南東部(道明地区)全体図	23
第2図	細谷地遺跡第37・38・40～42次調査区全体図	24
第3図	細谷地遺跡第41次調査区全体図	25

写真図版目次

第1図版	盛南開発地区航空写真	29
第2図版	細谷地遺跡第41次調査 第41次調査区全景(南から)、RD935近現代廃棄土坑・土層断面・遺物出土状況	30
第3図版	細谷地遺跡第41次調査出土近世陶磁器・金属製品	31
第4図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(1)	32
第5図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(2)	33
第6図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(3)	34
第7図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(4)	35
第8図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(5)	36
第9図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(6)	37
第10図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(7)	38
第11図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器(8)	39
第12図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(1)	40
第13図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(2)	41
第14図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(3)	42
第15図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(4)	43
第16図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(5)	44
第17図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(6)	45
第18図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(7)	46
第19図版	細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶(8)・ガラス製品	47
第20図版	近現代ガラス瓶参考資料	48

第1章 経過

第1節 事業の経過

(1) 盛南開発

構想具体化の始まり 東北縦貫自動車道、東北新幹線といった国家プロジェクトが北東北にも進展した昭和40年代、当時広大な農地が広がっていた雫石川の南岸、東北本線仙北町駅の西側は、盛岡市の将来の都市発展方向と目されていた。昭和46年2月発表の「盛岡市市勢発展総合計画」第一次案において、雫石川を渡って太田・本宮地区を南北に縦貫する市内の中心軸線道路が「盛南新市街地を通る線」と表現され、また都市基盤の整備に「軸状都心の形成」を掲げて「盛南新市街地の中心部」が南の拠点とされた。盛南開発構想が具体化した始まりである。総合計画は昭和47年4月に正式決定され、盛南開発予定区域は面積850haでスタートした。

協議会と地域公園 盛南開発の予備調査は、昭和52・53年度に当時の地域振興整備公団（以下「地域公園」と呼ぶ）により行われた。しかし、盛南地区の北東に隣接する仙北西地区の土地区画整理事業と幹線道路の都市計画決定に対し住民が反発する事態となったことを受け、盛南開発では住民との対話によって計画づくりを行う手法に転換された。地元の意見を反映させる場として協議会が昭和55年1月に設立され、以後1年半にわたって盛南地区850haの開発手法が議論された。昭和56年9月、事業区域割がまとまり、盛南地区は①「都市開発区域」431ha、②「市街化区域」74ha、③「中央公園」28ha、④「ほ場整備区域」317haの4区分されることとなった。道明地区は「都市開発区域」に含まれ、新市街地エリアとされていた。その後、「都市開発区域」について新たな協議会が発足、地域公園が事業主体となって着手される方針が固まった。

事業採択までの経緯 地域公園は、昭和58・59年度に「盛南地区基本計画調査」を行い、区域面積約450ha・総事業費480億円の基本計画案を策定。大蔵省との折衝に進んだが、事業規模の見直しが要求されたため、地域公園は規模縮小により新規採択に持ち込もうとし、盛岡市・旧都南村との意見対立が膠着した。しかし、新規事業採択をめぐる他都市との競合や、「軸状都心」の要となる盛岡駅西口地区（旧国鉄跡地）開発との同調の必要性などから譲歩せざるをえない状況となり、昭和62年8月、盛南地区の「都市開発区域」450haについては、320haを地域公園が地方都市開発整備事業により、残る130haについては盛岡市と旧都南村が土地区画整理事業等により独自に整備することで決着。「盛南地区都市開発整備事業」（面積320ha、事業費650億円）が昭和63年度新規採択事業となった。しかし、これにより「都市開発区域」の南東隅に位置していた道明地区は、地域公園の事業区域外となることが決した。

(2) 盛岡南新都市開発整備事業（盛岡南新都市土地区画整理事業）

事業認可 地域公園の事業採択を受け、岩手県・盛岡市・旧都南村による地域公園への事業申請が平成2年9月に行われた。地域公園による「事業実施基本計画」策定は、「盛岡南新都市整備計画委員会」において協議が進められ、平成3年12月に当時の建設大臣および国土庁長官から認可された。

事業経過 「盛岡南新都市開発整備事業」は、北東北の交流拠点都市の実現のため、現都心地区および盛岡駅西口地区に連担する職住近接の新しい市街地の形成を図るものとして現都心地区の南西部、雫石川の南

に位置する約313.5haを整備するものとされた。そして平成6年5月、土地区画整理事業の施行が認可となり、「盛岡南新都市土地区画整理事業」（面積313.5ha）は平成7年11月に着工。期間変更を経て約19年間にわたる長期の工事の中、平成14年には公募による「ゆいとびあ盛南」が愛称となり、また国の行政改革により平成16年より施行者が独立行政法人都市再生機構（以下「都市機構」と呼ぶ）に移行したものの、平成25年10月の換地処分公告で事業は完了した。

（3）道明地区土地区画整理事業

事業経過 盛岡南新都市の事業区域から除外されることとなった道明地区であるが、街区や区画道路、都市計画道路などの基本計画は、盛岡南新都市と一体のものであった。道明地区は、都市基盤づくりのひとつである「盛岡南地区都市開発整備事業」の一环として盛岡市による土地区画整理事業が平成16年2月に認可され、当初施行面積70.6haで開始された。「岩手山の眺望と豊かな水辺のあるまち」をテーマとして、都市計画道路をはじめとする公共施設などを整備することにより、良好な住環境の形成を図ることを目的としている。工事は盛岡南新都市に隣接する箇所から順次着工されていたが、社会情勢の急激な変化を受け、平成24年度から事業の抜本的な見直しが行われ、平成28年3月の事業計画変更により施行面積は21.7haに縮小。除外区域は生活環境の改善と土地利用の促進を図るため、幹線道路の整備、主要生活道路の拡幅、河川改修及び上下水道整備を別事業として実施することとなった。宅地区域は民間開発事業に転換したが、平成29年度に道明地区中央部は（仮称）盛岡学校給食センター（新給食センター）が、道明地区東部のJR東北本線沿いは新産業等用地が盛岡市により整備されることが決定した。

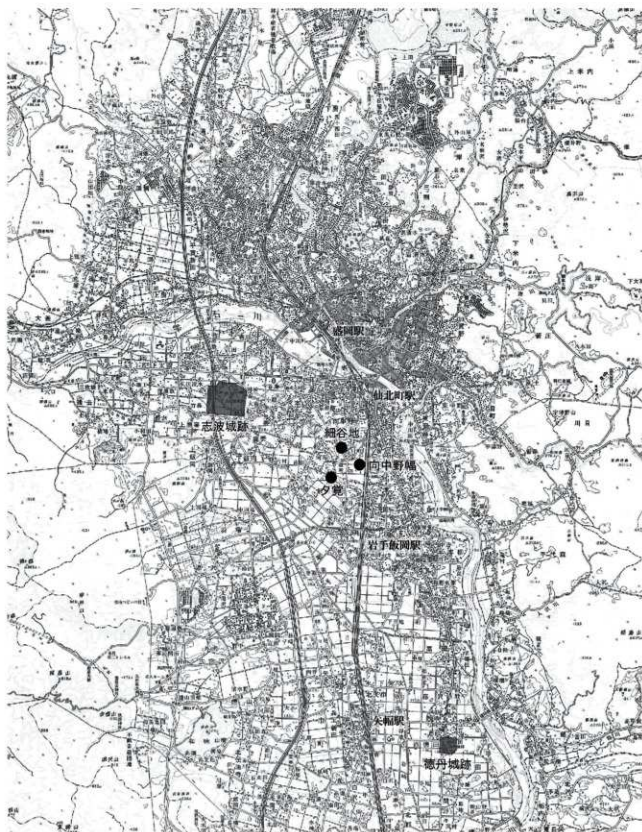
【参考文献】

（独）都市再生機構 岩手・秋田都市開発事務所 2014 「盛南に夢馳せて～盛岡南新都市土地区画整理事業 事業誌～」

第2節 発掘調査の経過

盛岡南新都市区域の遺跡と調査 盛南地区の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）のうち、盛岡南新都市の区域内については計18遺跡（当初は17遺跡）が存在し、総面積が約60haと広大であったことから、盛岡市教育委員会（以下「市教委」と呼ぶ）と（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」と呼ぶ）が、平成4年度から試掘調査と本調査を担当した（平成3年12月11日付「覚書」「確認書」による）。基本的に、県埋文センターは盛岡市（宅地・区画道路分）と地域公団・都市機構（都市計画道路分）、国土交通省（国道46号線盛岡西バイパス）からの委託事業として本調査を実施。市教委は本調査範囲確定及び遺構密度確認のための試掘調査と、建物移転等により県埋文センターが対応できない箇所等の本調査を市教委予算事業（国土交通省交付金等）として、また一部の都市計画道路の本調査を地域公団・都市機構からの委託事業として実施した。

道明地区の遺跡と調査 一方、道明地区の当初事業計画では、盛岡南新都市の区域より続く細谷地遺跡・夕覚遺跡と、中央部に位置する向中野幅遺跡の計3遺跡が存在していたことから（挿図1・2）、計画策定段階より市教委と都市整備部で協議を進め、発掘調査（報告書刊行含む）はすべて都市整備部予算事業（国土交通省交付金等）で行うこととされた。発掘調査は、盛岡南新都市と並行して平成20年度の夕覚遺跡から



【この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図を縮小して使用したものである。】

挿図1 遺跡位置図 (1:100,000)

始まり、平成23年度からは細谷地遺跡の本調査を開始。夕見遺跡の事業区域の野外調査は平成24年度で完了、細谷地遺跡の野外調査は令和3年度で完了している。本書で報告の対象としている細谷地遺跡の令和2年度の調査成果の概要は、挿表1のとおりである。なお、計画変更により向中野幅遺跡は土地区画整理事業区域より除外となったものの、(仮称)盛岡学校給食センター(新給食センター)建設事業及び新産業等用地整備事業に伴い、平成29・30年度に発掘調査が実施されている(別途報告書刊行)。

道明地区の資料整理と報告書刊行 土地区画整理事業関連の出土遺物や遺構図面等の資料整理は、野外調査開始当初より、埋蔵文化財センター機能を持つ「盛岡市遺跡の学び館」で計画的に進められた。発掘調査報告書の編集・刊行は、数年度をまとめて分冊として報告する方針としており、本書は道明地区土地区画整理事業関連の5分冊目(盛南地区遺跡群発掘調査報告書の14冊目)の報告書である。

挿表1 盛南地区遺跡群発掘調査一覧表〔細谷地遺跡、令和2・3年度〕

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
細谷地	OHY	41	R2	本調査	向中野字細谷地24-3外	776	2020.7.7~ 2020.7.21	近現代産業土坑1	土地区画整理 (道明地区)	市教委	本書
		42	R3	試掘調査	向中野字細谷地24-8	14	2021.6.10	なし	土地区画整理 (道明地区)	市教委	本書

第3節 体制

〔事業者〕 盛岡市(都市整備部盛岡南整備課)

〔調査主体〕 盛岡市教育委員会

〔事務局〕 盛岡市教育委員会事務局歴史文化課

〔調査〕 盛岡市遺跡の学び館 担当者 細谷地遺跡第41・42次調査(令和2・3年度) 鈴木俊輝

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員(令和3年度)

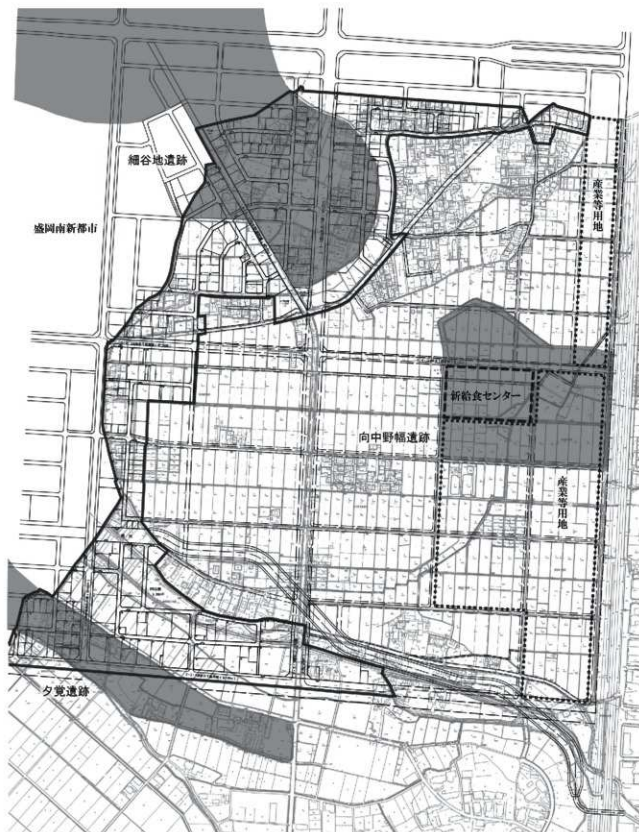
教育長 千葉 仁一
 教育部長 岡市 和敏
 教育次長 川原 善弘

歴史文化課(施設整備・文化財担当)
 (事務局(都南庁舎))

課長 潮船 活彦
 主幹・課長補佐 畠山 俊明
 文化財主査 三浦 陽一
 学芸主査 吉田 智春
 主事 泉山 翔太
 主事 石川あかね
 学芸員 番 史緒未
 主事 大山 空良
 文化財主事 川村 岳人
 文化財調査員 戸澤 博子
 文化財調査員 吉田 沙織
 文化財調査員 篠原 理恵
 文化財調査員 沼崎 由子
 事務補助 菊敷山真由美
 事務補助 明石 成子

歴史文化課(埋蔵文化財担当)
 (遺跡の学び館)

館長(兼) 潮船活彦
 館長補佐 大森 勉
 文化財副主幹 菊地幸裕
 文化財主査 津嶋知弘
 文化財主査 神原雄一郎
 文化財主査 今野公顕
 文化財主査 花井正香
 主任(再) 杉浦雄治
 文化財主事 鈴木俊輝
 文化財主事 今松佑太
 文化財主事 杉山一樹
 文化財調査員 佐々木あゆみ
 文化財調査員 伊藤聡子
 文化財調査員 浜谷 佑
 文化財調査員 室野秀文
 学芸調査員 千葉貴子
 学芸調査員 樋下理沙
 事務補助 立花真奈



挿図2 道明地区土地区画整理事業全体図 (変更後1:600)

第2章 遺跡群の位置と環境

第1節 地理的環境

位置と立地 盛岡市は、岩手県の中央部に位置する。平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口297,631人（平成27年国勢調査）、面積886.47km²の県庁所在地である。平成20年4月には、中核市へ移行している。地理的には、北上盆地の北端、岩手県から宮城県にかけて南流する北上川に、中津川・雫石川・築川といった支流が入り込む合流点にある。「盛南地区遺跡群」は、北上川の西岸とその支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。

地形と遺跡分布 雫石川は奥羽山脈から東流し、烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近（市内上太田）で急激に流路を狭められ、その狭窄部を抜け北上盆地に入り、北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより、狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ、沖積段丘（砂礫段丘）が発達している。沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上に水成シルト層、そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが、砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また、このシルト層は旧河道ばかりでなく、微高地などにも堆積している。このことは、この低位沖積段丘は、雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され、さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、連続する大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており、複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に、古代を中心とした遺跡が分布している。

遺跡群と所在地 この微高地上に立地する盛南地区遺跡群は、「盛岡南新都市開発整備事業（盛岡南新都市土地区画整理事業）」区域（面積313.5ha、平成25年事業完了）に所在した計17遺跡（大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡・夕覚遺跡・南仙北遺跡）と、南東に隣接する「道明地区土地区画整理事業」の当初区域（面積70.6ha、平成15年事業開始、継続中）に所在する計3遺跡（うち2遺跡は盛岡南新都市から連続、細谷地遺跡・夕覚遺跡・向中野館遺跡）の総称である。道明地区土地区画整理事業については、細谷地遺跡が盛岡市向中野字細谷地（盛岡南新都市では向中野5丁目・7丁目）、夕覚遺跡が盛岡市飯岡新田5地割（盛岡南新都市では北飯岡3丁目・4丁目）、向中野館遺跡が盛岡市向中野字幅・畑之内に所在するが、この所在地名は事業完了後の住居表示整備により、今後変更になると見込まれる。

第2節 歴史的環境

遺跡群の時代 本遺跡群の立地する沖積段丘上では、縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の古代集落で、一部に中近世の居館・集落・墓域などがみられる。

先史 縄文時代の遺構遺物は、本宮館堂A遺跡や台太郎遺跡で縄文晩期を中心とする堅穴建物や遺物包含層が検出されている。また、詳細な時期は不明であるが、飯岡才川遺跡や細谷地遺跡、矢盛遺跡などでは縄文時代の陥し穴がまとまって確認されている。弥生時代の遺構遺物は、わずかに弥生前期頃の土器埋設遺構が台太郎遺跡にあるほか、弥生後期の土器片や北海道系の統縄文土器片が台太郎遺跡・細谷地遺跡で散発的に出土している。

古代 7世紀前葉以前の古墳文化の痕跡は不明であるが、7世紀中葉の遺構遺物は台太郎遺跡などで確認されており、これ以降、当該地域に集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降堅穴建物を主体とした集落が増加する。この時期の集落は、大型堅穴建物を中心としてその周囲に中～小型の堅穴建物が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向があり、血縁的一族が共同体集落を構成したと考えられる。この時期は、「蝦夷（エミシ）」と呼ばれていた人々の集団と北進する律令政府とが激しく争ったことが文献に見られる。やがて当該地周辺の志波エミシは律令政府側に付き、胆沢エミシのアテルイは征夷大將軍の坂上田村麻呂に降伏。平安時代初頭の延暦21年（802）には北上盆地南部に胆沢城が、翌延暦22年（803）には本遺跡群の西方に「志波城」（下太田方八丁ほか）が造営される。

志波城は、東北地方のエミシ統治のために都の律令政府が造営した「古代城柵」である。『日本紀略』によると、坂上田村麻呂が「造志波城使」となり志波城は造営され、その規模は陸奥国最大級のものであったことが発掘調査により明らかとなっている。しかし北を流れる現在の雫石川（当時としては北上川の本流的流れ）の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城（矢巾町）に移転したことが、『日本後紀』に見られる。その後、徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止したようであり、本地域を含む北上盆地全体が、鎮守府となった胆沢城による一城統治の体制に移行したと考えられている。

律令政府の直接統治から在地エミシ系勢力を介した間接統治へと変化したであろう9世紀中葉から、本地域では堅穴建物を主体とした集落が増加していく。堅穴建物の規模の大小差は縮小するようになり、重複するものやカマドを作り替えるものが多く見られるようになる。また、向中野館遺跡で発見された低湿地の水辺祭祀遺物や、飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡の円形周溝墓（末期古墳）群など、本地域内に集落以外の機能のエリアが見られるようになる。また、9世紀後葉から10世紀中葉にかけては、各地区に拠点の集落が形成されるようになり、カマドを何度も作り替える大型堅穴建物が出現するようになる。飯岡才川遺跡では、微高地の南斜面に沿うように総柱の掘立柱建物が東西に並立し、高床倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や、志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で、官衛的な大型掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており、これらは新興在地有力者の拠点と考えられる。

古代末～中世 11～12世紀にかけての様相ははっきりしないが、平安時代末となる12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが、盛岡南新都市の西隣にある大宮遺跡の大溝から多量に出土している。鎌倉時代の13世紀後半には、台太郎遺跡で不整五角形に堀を巡らす居館が営まれ、地域を支配した在地領主の存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も確認されており、出土遺物から15世紀頃まで存続したようである。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、堀跡と掘立柱建物群が検出されており、出土遺物等から戦国時代の16世紀代を中心とする居館（環濠集落）と考えられている。

近世 江戸時代になると雫石川はほぼ現在の流路の位置となり、東の北上川沿いには、盛岡藩の城下町に続く奥州道中（街道）や仙北細町が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村風景となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物や井戸、南仙北遺跡では道路跡などの遺構が発見されており、この姿は盛岡開発事業が施工される直前、昭和40年代までの本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

第3章 調査成果

第1節 細谷地遺跡の立地と概要

遺跡の位置と立地 細谷地遺跡は、延暦22年（803）に造営された古代城柵である志波城跡の南東約2.5kmに位置し、北に向中野館遺跡が隣接、北西に飯岡才川遺跡、南西に矢盛遺跡、南東に南仙北遺跡が囲んでいる。なお、志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上にあり、その南端縁辺部にあたり、遺跡の東側は北上川旧河道に面している。遺跡範囲は東西約600m、南北約280mをはかる。遺跡の西部・中央部が盛岡南新都市開発整備事業区域（都市再生機構施工）、南東部が都市再生整備計画事業区域（盛岡市施工、道明地区土地区画整理事業）となっている。

遺跡の概要 盛岡南新都市開発整備事業に伴い実施した発掘調査成果が報告済みであり、これまで県埋文センターと市教委の発掘調査により、向中野館遺跡から連続して旧河道に面する細谷地遺跡の中央北縁から南東部にかけて帯状に長く、8世紀前葉～10世紀の古代集落が確認されている。両遺跡を合わせ289棟の竪穴建物跡が精査されており、盛南地区で台太郎遺跡（700棟以上）に次ぐ大規模集落である。向中野館遺跡の中央を東西に横断する旧河道は、9世紀前葉から始まる水場祭祀遺構となっており、木簡などの木製品が多く出土している。この旧河道の北西に隣接する飯岡才川遺跡東集落には、9世紀後半の大型竪穴建物と計画的配置の総柱掘立柱建物が集中しており、多数の須恵器が出土している。

第2節 調査内容

(1) 第41次調査（令和2年度）

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、道明地区土地区画整理事業に伴う本調査として実施した（第1・2図）。調査区は、平成30年度実施の第38次調査Ⅱ区北隣、令和元年度実施の第40次調査区の南隣及び西隣に位置し、調査面積は776㎡。重機により表土を全面除去し、遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

検出された遺構は、近現代の廃棄土坑1基（RD935）のみである。

・廃棄土坑

RD935（第3図）

位置 調査区南東部 **重複関係** なし **平面形** 不整円形 **規模** 径5.9～7.2m

出土遺物 近世陶磁器・金属製品、近現代陶磁器・ガラス瓶・ガラス製品・磁器製品

第4章 総括

1. 調査のまとめ

盛岡市教育委員会で行った令和2年度の細谷地遺跡発掘調査により、第3章に記載した内容の成果を得ることができた。以下、調査内容のまとめを行い、総括とする。

細谷地遺跡第41次調査

令和2年度に行った第41次調査区全体で検出された遺構は、近現代の廃棄土坑1基（RD935）のみであり、周辺でこれまで確認されていたような縄文時代の陥し穴群、古代の堅穴建物跡、近世の掘立柱建物跡などは確認されなかった。

〔近世〕 近現代廃棄土坑RD935より18～19世紀の近世陶磁器と金属製品が出土している（写真第3図版）。肥前染付の大皿・丸皿・小皿・輪花皿、瀬戸染付の角小皿・小皿、山藪焼染付の碗・皿・湯呑・輪花皿、花古焼染付の手あぶり、備前京焼風陶器の鉢・皿、瀬戸美濃の緑軸鉢・灰軸碗、相馬大堀系の皿・湯呑、寺町焼の灰軸片口鉢・鉢・蓋・甕、花巻鍛冶町焼のなまこ軸鉢・甕などの破片が見られる。なお、山藪焼、花古焼、寺町焼は盛岡市内、花巻鍛冶町焼は花巻市内に操業した地方窯である（盛岡市遺跡の学び館2010・2014、盛岡市教育委員会2019、花巻市博物館2004）。金属製品としては、煙管の雁首と吸い口が出土している。これらは幕末からの伝世品等が近現代に廃棄されたものと考えられる。

〔近現代〕 第41次調査区から近世陶磁器・金属製品及び近現代陶磁器類・ガラス瓶・ガラス製品・金属製品等が多量に廃棄された土坑状の遺構が1基（RD935）検出され、大多数の遺物を回収した。同様の遺構が周辺の第37・38・40次調査区より計34基検出されており、当該遺構を「廃棄土坑」と呼称している（盛岡市ほか2020・2021）。出土遺物の時期は明治・大正から昭和20年代に及ぶと考えられ（写真第4～19図版、第1～3表）、次項で内容を概観する。

2. 細谷地遺跡第41次調査出土の近現代遺物

①陶磁器類

〔器種〕

廃棄土坑より出土した近現代陶磁器の器種は、飯茶碗（子ども用含む）、碗蓋、碗、湯呑、皿、洋皿、鉢、洋鉢、盃、徳利などがみられ、飯茶碗・湯呑・皿の個体数が圧倒的に多く、同じ装飾で組みとなっている物が多数ある。日用食器以外では、火入れ、手あぶり、仏具、通徳利、汽土瓶などが出土している。

〔装飾技法〕

近代以降の陶磁器における装飾技法の特徴には、合成釉薬の導入と多様な印刷技術の展開という二つの柱がある（長佐古真也2007）。廃棄土坑出土陶磁器の染付には発色の鮮やかな酸化コバルトが使用され、手描き染付のほか型紙刷、銅版刷、吹き絵、ゴム印判といった印刷技法、多色の上絵技法がみられる。明治～大正期に多用される精緻な文様の型紙刷・銅版刷の個体数が約半数を占める。子ども用飯茶碗の上絵に昔話や動植物文様、女兒・野球少年、歌詞などのほか、軍国調文様（日章旗・旭日旗、戦車、兵隊、有刺鉄線など）

がみられるのは、戦時下の世相を反映している（岐阜県現代陶芸美術館2016）。

また、ノベルティと考えられる「東京 首沼」「亀屋商店」「木津屋醤油店」「岡寅」といった会社名や商店名が入った湯呑、皿、鉢のほか、「吉興酒店」「銘酒 日の丸」と店名と清酒銘柄の入った酒器としての湯呑がある。通徳利には「濱藤本店」「銘酒 岩手川」（仙北町と鉾屋町に酒蔵があった老舗酒造会社と銘柄、2006年廃業）の文字が大きく手描きされている。窯元や陶磁器メーカーの印銘としては、湯呑の「九谷」「不二陶器」、鉢の「喜祥」「泉山」、欄徳利の「西山精製」、洋皿の「日本陶器会社 NORITAKE」「東洋陶器会社」や紋章風マークがみられる。

【記念湯呑・軍壺】

表彰の記念品と考えられる「老若男女勤儉誠行会 昭和二年三月十二日」と記された湯呑が出土している。また、盃に星マークや桜、日章旗・旭日旗が描かれ、「除隊記念」「工八 凱旋記念」の文字があるものは陸軍関係の軍壺（戦前における徴兵の除隊記念や連隊の凱旋記念などで配られた記念品の壺）、錐形マークや軍艦が描かれ、「佐工徴用記念」の文字があるものは海軍関係の軍壺と考えられる（「佐工」は佐世保海軍工廠か）。

【統制陶磁器】

陶磁器の高台裏や底部に生産地組合ごとの生産地を表す文字（漢字一文字・二文字、カタカナ一文字）と生産者に与えられた数字を組み合わせたものが、ゴム印または型打ちによって付されているのがみられる。これは戦時下に生産統制を目的とした「統制番号（生産者別標示記号）」であり、昭和16年（1941）から終戦後の昭和21年（1946）頃までに限られるという。第41次調査出土資料にみられる生産地文字は、これまで細谷地遺跡で確認されてきた「岐」（岐阜県東濃地区、美濃焼）だけでなく、「有」（佐賀県有田）、「瀬」「セ」（愛知県瀬戸）、「品」（愛知県品野）が新たに確認された。過年度も含め出土した陶磁器の統制番号の一覧は挿表2のとおりである。日用食器である磁器の飯茶碗・碗・湯呑・皿・鉢、記念品としての軍壺、そして代用陶磁器の鍋・化粧水甌・化粧クリーム甌などに付されている。全国の生産地の統制番号については財団法人岐阜県陶磁資料館2008、美濃焼（岐阜県陶磁器工業組合連合会（岐工連）傘下業者）の統制番号の一覧については桃井・萩谷・舟橋2010、統制番号の標示根拠・付与方法・期間の詳細は萩谷2013に詳しい。

細谷地遺跡では、遺跡の南東部から統制番号37種（52個体）が確認でき、内訳は「岐」（岐工連）32種（44個体）が圧倒的で、「瀬」「セ」（瀬戸）3種（6個体）、「品」（品野）1種（1個体）、「有」（有田）1種（1個体）である。昭和16年（1941）当時、美濃焼業者の組合連合である岐工連は傘下7組合に1,337業者が所属していた。同じ東海地区の瀬戸が1,137業者、品野が251業者、九州地区の有田が111業者であったことからすると、業者数が美濃に近い瀬戸の製品が少ないことが意外である。同じ東北地方の秋田県内で収集（古物商等から購入）された統制陶磁器の統制番号の集計でも、「岐」が多くを占めることが報告されている（庄内2010）。戦時下では生産のみならず流通も業界団体を通じた国家統制下にあり、消費地における統制陶磁器の産地組成は、生産地の生産力や伝統的な流通ルートに連動したのではなく、それらを排した全国的な一貫的配給体制の結果によるものと考えられ、意図的な地域差があるものと予想される。

なお、この統制番号のほかに「許」+5桁数字の標準記号が付されているものが4点あり。これは、上絵付け給具による鉛毒中毒を防ぐ目的で公布された昭和11年（1936）内務省令第25号「飲食用器具取締規則中改正」に基づくものである（舟橋2015）。

【国民食器（厚口食器）】

統制番号の付された食器の中に、厚手で口縁端部に緑色二重圏線を有する特徴的なものが4点あり、「国

民食器」(瑞浪市陶磁資料館2012)または「厚口食器(緑二重線入り食器)」(舟橋2015)と呼ばれている。これらは工場や病院などにおいて給食用食器として用いられたとされているが、近年東京都などでは旧日本軍施設の発掘調査でも出土している。統制番号からは岐阜県東濃地区、愛知県瀬戸地区の多くのメーカーが生産していたことが明らかとなっている。「国民食器」のデザインの起源は、大正9年(1920)に岐阜県瑞浪市「美濃窯業製陶(株)」が親会社から大量受注した給食用食器とされ、それが緑色二重線に社章を加えたものであった。これが「厚口食器(二本線筋入)」として製造権が「瀬戸、岐工連(西南部、瑞浪)」の組合に付与され、昭和9年(1934)の段階には線線デザインが給食用食器のデザインとして広く認識されていたようである。「国民食器」は法制化されたものではなかったが、昭和16年(1941)以降多くのメーカーが生産しており、単純なデザイン(絵付けに特殊な器具や熟練工が不要で生産コストが低い)、色調が華美でなく国防色に近い等の要因が時局に合致したと考えられている。なお、「国民食器」の語が一般的に文書で使用されるようになるのは昭和18~19年頃のものであるが、「国民食器」=「緑色二重線食器」を示す資料は確認できず、それを理由に「厚口食器」の語が使用される場合がある。写真第10図版RD935No.363は、統制番号のある「国民食器」のデザインである一方、不釣り合いに西洋風の華美なバラが色彩豊かに絵付けされており、戦時下で生産された在庫の素地を流用して、戦後に上絵付けされた商品が存在した可能性が指摘されている(瑞浪市陶磁資料館2012)。なお、「国民食器」と同じデザインでも線が青色で「岩手醫専附属病院」(現在の岩手医科大学附属病院)のマークがある写真第10図版RD935No.254は、「工場食器(病院食器)」として区別されるようである。

【代用陶磁器(陶磁器代用品)】

戦時下の物資不足の中、金属やガラスの代用として陶磁器が使用された。調理用品では鍋、ヤカン(耐熱湯沸土瓶)、おろし金、化粧品容器では化粧水瓶、化粧クリーム瓶・蓋が出土している。陶磁器代用品の時代背景、成立・発展に係る政策や産地・製品の事例は萩谷2017に詳しい。

陶磁器業界では、昭和12年(1937)の日中戦争勃発以降、悪化した国際関係の影響から輸出不振となっていた。そこで、金属類の消費節約の動向から、代用として陶磁器が脚光を浴びるに至ったのを好機と捉え、不況打破の活路を見出そうとしていた。全国組織である日本陶磁器工業組合連合会(日陶連)は昭和13年(1938)7月に「指定代用品」を規定して製造者を登録、製品を検査し、自らも開発研究にあたるなど、国策である代用品普及事業に陶磁器業界として積極的に対応した。特に、第11図版RD935陶器No.018の鍋やNo.019のヤカンといった直接火にかける代用品については材質から研究開発され、耐熱試験を行っており、戦後のガス火でも使える土鍋の基になった。昭和16年(1941)11月以降は、国による計画生産により各業者における製造品種や数量の自主的選択は失われ、国(日陶連)認定製品に限り製造が許可された。

流通においても、昭和17年(1942)5月に「新興陶磁器配給統制株式会社」が日陶連と指定商人の共同出資により設立され、飲食器とは別に、一括して市場への配給の調整が図られた。この影響を大きく受けたのが化粧品業界であった。本来のガラス製の化粧品容器は、資材・燃料不足により生産が縮小され、陶磁器容器が注目された。袋物である陶磁器容器は、徳利と同じ技法(合わせ型・鋳込み型を使用)で製造されていた。当初「指定代用品」であった化粧品容器は、計画生産の実施段階で、金属の代用品ではないという理由で「一般品」として75%減産されることとなり、業界団体の日陶連への陳情により、クリーム、ポマード、歯磨用については「指定代用品に準ずる」となった。しかし、陶磁器容器類の公定価格が低廉に設定され産元の採算が不利となったことから、新興陶磁器配給統制株式会社との交渉により、価格は公定価格基準簿最高額での取引、さらに希望数量の20%(のちに50%)の保証金(前渡し金)支払いにより、化粧品容器の増

産が図られることになったという。

【磁器製品】

磁器製品として、電気器具の一部である電球ソケットやコンセント、ボタン、タンズ形の玩具などが出土しているが、ボタンは上記の代用陶磁器の一つかもしれない。昭和18年（1943）度の金属類特別回収の実施項目に制服の金ボタン回収運動があり、学生のほか官公庁の制服も対象となり、代用品として陶磁器や木製のボタンが用意されたという。昭和16年（1941）には既に金属回収の代用品として陶磁器製ボタンが登場しており、昭和18年（1943）の美濃では学生ボタン以外に四つ穴の作業ボタンも大量生産されていたという（萩谷2017）。

②ガラス瓶

遺跡から出土するガラス瓶を考古遺物として調査・分析する意義や手法については、『ガラス瓶の考古学』（桜井2006、2019増補）を参考とし、その分類も基本的に準拠している。個々のガラス瓶の詳細や年代は観察表のとおりであるが、特徴的な資料について以下に記述する。

【酒瓶】

■ビール瓶：明治維新直後から日本国内でもビール醸造が開始されていたが、国産ビール瓶の製造は明治22年（1889）の有限責任品川硝子会社により始まるとされ、「人工吹き」と呼ばれる職人の手によるものであった。写真第12図版001は、国産初期のビール瓶であり、瓶の形は「なで肩」で、底はキックアップというワイン瓶のような上げ底となっている。口縁部は欠損しているが、コルク栓で口のつくりは平面的であったと考えられる。これと全く同形の瓶が写真第20図版参考資料1であり、大日本麦酒「エビスビール」（輸出用）のラベルが貼られている。現在のような王冠栓のビール瓶は、明治33年（1900）の「東京ビール」（東京麦酒株式会社）に始まる（写真第20図版参考資料3、東京麦酒は明治40年に大日本麦酒に吸収合併）。写真第12図版002は、大日本麦酒株式会社の自動製瓶機による褐色ビール瓶で、瓶の形は「いかり肩」。大阪麦酒（アサヒ）、日本麦酒（エビス）、札幌麦酒（サッポロ）が明治39年（1906）合併、当時の市場占有率が約7割であった（端田2016）。大正9年（1920）にはオーエンス式自動製瓶機の特許権を持つ日本硝子工業を合併して製瓶の近代化を進め、大量生産が確立された（川島2013）。戦後の昭和24年（1949）に朝日麦酒（現アサヒビール）と日本麦酒（現サッポロビール）に分割された。第12図版003は、麒麟麦酒株式会社の褐色ビール瓶であり、瓶の形は「なで肩」。明治3年（1870）にアメリカ人ウィリアム・コーブランドが横浜に開設したスプリングブレー・ブルワリーを引き継いで明治18年（1885）に設立されたのが外国資本のジャパン・ブルワリー・カンパニーであり、その銘柄が「麒麟ビール」（販売は明治屋、第20図版参考資料2）であった。それを継承して明治40年（1907）に日本資本の麒麟麦酒株式会社が設立され、現在に至る。その後、大正2年（1913）に帝国麦酒株式会社（サクラビール、写真第12図版004）、大正11年（1922）に日本麦酒醸造株式会社（ユニオンビール、写真第12図版005）などが設立され、販売も健闘したが、昭和初期には大日本麦酒に吸収合併され、戦時下となった。

写真第13図版006～008は、アメリカ製ビール瓶。昭和20年（1945）8月に終戦を迎えると、戦勝国のアメリカ軍が日本の軍事占領のため進駐した。第二次世界大戦末期、アメリカ軍は戦線にビールを船で運ぶのに省スペースで軽量なワンウェイ（使い捨て）瓶を使用しており（Peter Schulzほか2019）、進駐軍がそれらを戦後日本に持ち込んだと考えられる。当時物資不足であった日本では、本来は強度がないワンウェイ瓶が回収・転用され、全く別のラベルと中身で流通していたことがわかっている（桜井2006）。

■清酒瓶：明治の初めまで、清酒は写真第9図版RD935陶器No.022のような通徳利を使用した量り売りや「庄民」では基本であった。明治11年(1878)には瓶詰め酒が初めて売り出され、明治36年(1903)頃には1升、4合、2合、1合など瓶詰め清酒が多彩になり、清酒にガラス瓶の使用が一般化するようになった。写真第13図版010-011のように初期の清酒瓶は「人工吹き」であり、当初はコルク栓(011)であったものが明治40年(1907)頃から機械栓(010)に移した。写真第13図版009のような機械製瓶機による1升瓶の大量生産が始まったのは大正13年(1924)。大阪の徳永硝子製造所は、アメリカのハートフォード社に交渉して特別注文した製瓶機で1升瓶の製造に成功、大型瓶用の自動製瓶機の開発は当時画期的なことであった。

〔清涼飲料瓶〕

■サイダー瓶：第13図版012は金線飲料のサイダー瓶(完成品は第20図版参考資料4)。「金線サイダー」は日本で初めて本格的に流通したサイダーであり、横浜の秋元巳之助が、炭酸水にリンゴのフレーバーをつけて販売。以前にあった「シャンペンサイダー」がハイナップとリンゴのフレーバー由来であったことから、「シャンペン」の語を除いた「サイダー」という商品名にしたとされている。アメリカのウィリアム・ペインターが発明した王冠栓を明治37年(1904)に日本で初めて採用した。金線飲料の設立は大正4年(1915)、大正14年(1925)には日本麦酒醸造と合併している。写真13図版013は合併後の瓶であり、当時は三ツ矢サイダーと兄弟銘柄として併売された。第14図版014は、昭和3年(1928)に発売された麒麟麦酒「キリンレモン」の無色透明瓶。

■みかん水瓶・ニッキ水瓶：写真第14図版015は、みかん水瓶の三段形の胴部。みかん水とは、みかんの皮から絞った香油で風味をつけた無果汁の飲料水。駄菓子屋・雑貨店のほか、祭りの露店などでも売られていた。015は後述するニッキ水瓶に類似した形状だが、ガラスがより厚手で大きい。第20図版参考資料5は類似した三段形の完成品であり、葉付みかんの形状となっている。ボトルネックが際立って長いものが多く、冷水のパケツにつけても口から水が入らず、取り出しやすいように進化したといわれている(平成ボトルクラブ2017)。第14図版016はニッキ水瓶。ニッキ水とは、「肉桂」という木の樹皮を乾燥した香辛料で風味をつけた飲料水で、主に駄菓子屋で子ども向けに販売されていた。ボトルネックがより細長く、少しずつ飲むようになっていた。

〔乳製品瓶〕

■牛乳瓶：牛乳容器は、明治22年(1889)に東京の津田牛乳店が初めてガラス瓶を採用してからそれが普及し、明治33年(1900)には法令でガラス瓶が義務付けられる。写真第14図版017・018は初期の牛乳瓶で、「人工吹き」で底にキックアップがあり、淡青色透明、紙栓またはコルク栓であったと考えられる。写真第14図版019は「三芳話」(3デシリットル詰め=300ミリリットル詰め)と陽刻があり、当時としては大型の牛乳瓶である。昭和2年(1927)には無色透明瓶と王冠栓が義務化となる。写真第14図版020は昭和初期頃の牛乳瓶であり、「北辰社」と陽刻がある。明治維新後、江戸幕府を支えてきた幕臣は静岡に移封され、諸大名の江戸屋敷も廃止されたため、新都東京の中心部は廃墟となっていた。それらは武士の失業対策もかねて払い下げられ、酪農の牧場として利用された。明治6年(1873)には、都心部に7軒の牧場があったという。その一つが飯田橋にあった「北辰社」であり、榎本武揚(幕府留学生としてオランダへ3年間留学、箱館戦争で降伏後、新政府で北海道開拓使などを歴任)の所有であった。明治32年(1899)に蒸気による殺菌牛乳が販売されるようになると、東京第一の北辰社牛乳の衛生さを宣伝する新聞広告を出している。飯田橋には現在「北辰社牧場跡」の記念碑があり、牛乳販売店(創業明治4年)も千代田区九段南に業務用乳製品卸として現存している。写真第14図版021は胴部断面四角形の牛乳瓶で、「一合」「一八〇瓦」(180グラム=180ミリリットル)と陽刻

があり、全く同型の完形瓶が第37次調査RD902から出土している（盛岡市・盛岡市教育委員会2020）。

【調味料瓶】

■**カレー粉瓶**：調味料としてのカレー粉は、インドを植民地としていたイギリスのクロス&ブラックウェル社が18世紀末に「C & B カレーパウダー」というスパイスの粉の調合品を販売したことに始まり、これを使ったカレー料理がヨーロッパ中に広まっていた。このC & B社のカレー粉がイギリスから輸入されるようになるのが明治20年（1887）頃で、明治末には日本式の「ライスカレー」を食べさせる洋食レストランが普及した。山崎峯次郎は東京に「日賀志屋」を創業（現エスピー食品）、昭和5年（1930）に「ヒドリ印カレー粉（家庭用）」を発売、翌年にはヒドリ印に「S & B」を併記し商標とした。写真第15図版022はそのカレー粉瓶。国産カレー粉が普及した一方、日中戦争の勃発により昭和13年（1938）にスパイスの輸入制限が始まると、昭和14年（1939）に原料獲得のため「関東カレー工業組合」（会長 山崎峯次郎）が結成されており、写真第15図版023はその組合指定の共通瓶であるが、気泡が多く雑な作りである。昭和初期までは写真第15図版024のような首が長く平たい家庭用カレー粉瓶が多く、イギリス製のマスタード瓶にヒントを得たと言われ、三味線のバチに似ていることから「バチびん」とも呼ばれていた（石川県能登島ガラス美術館2009）。同様の形状のガラス瓶が第37次調査RD902から出土している（盛岡市・盛岡市教育委員会2020）。

【食品瓶】

■**金平糖瓶**：写真第15図版025は、大正末期から昭和初期にかけて子ども達に大人気だった「菓子入り玩具瓶」。金平糖が入ったガラス瓶のことで、名前のおとりに金平糖を食べ終わったあとは、玩具（おもちゃ）として遊べるデザインとなっていた（ただし金平糖は当時的高级菓子）。025は女児向けのダイヤマークの並ぶ水筒形であるが、そのほか鉄砲、飛行機、自動車、楽器などさまざまな形があった（平成ボトルクラブ2017）。

【薬瓶】

■**医療用薬瓶**：写真第15図版028～032は、病院での処方薬の容器で、無色透明、薄手で軽いが特徴。胴部には目盛線があり、病院名の陽刻またはラベルを貼る区画が見られる。028の「日本赤十字社岩手支部病院」は現在の盛岡赤十字病院の大正9～昭和17年（1915～42）の名称である。

■**一般用薬瓶**：市販薬の容器で、多種多様な色と形があった。写真第16図版033にある「ZENKOREN」（全購連）とは、大正12年（1923）に創立された「全国購買組合連合会」であり、戦後に農協の購買部門の全国組織として再発足（現在の全国農業協同組合連合会）。上部の桜マークには「共存同業」の文字がデザインされており、中身はビタミンなどの栄養剤が入っていたようである。

■**軟膏瓶**：写真第16図版035は塗り薬「メンソレータム」の瓶。メンソレータムは19世紀にアメリカ実業家アルバート・ハイドが考案したもので、日本では滋賀県近江八幡を拠点に実業家・建築家として活躍していたウィリアム・メレル・ヴォーリズが、旧知の縁で販売権を取得。大正9年（1920）に近江セールズ株式会社を設立して輸入販売が開始された（昭和49年まで継続、その後はロート製薬が販売）。

■**目薬瓶**：写真第16図版037・038は「目薬 精皓水」と陽刻のある断面円形の目薬瓶。明治4年（1871）発売の西洋式目薬である岸田吟香薬房「精皓水」の模倣品と考えられる。当時は毛筆で薬液を滴下していた。写真第16図版036は「目薬 上池液」と陽刻のある断面横長八角形の目薬瓶。ガラス管スポイトを収納できるよう瓶の一角が凹んでおり、明治30年（1897）発売「大學目薬」の瓶形状に類似しており、大正期に普及した形状である。写真第16図版039は昭和初期に始まる滴下式両口点眼瓶（瓶とスポイトが一体化）。目薬瓶の上部にゴム部品をはめ、それを押すと薬液が出る設計であった。目薬の変遷についてはウェブサイト「一般社団法人北多摩薬剤師会／薬と歴史シリーズ」に詳しい。

〔化粧瓶〕

■**白粉瓶**：西洋風化粧瓶が一般に普及したのは明治後期からで、大正時代以降は自然な化粧法が進み、白粉も白一色から有色へ、練白粉から粉白粉へと変わっていった。写真第16図版041は、大阪の脇田盛真堂から明治25年（1892）頃発売された「花王白粉」。脇田盛真堂は白粉の製造元であるとともに、有力な化粧品問屋であり、新聞広告も盛んであった。写真第16図版042のようなガラス栓の広口小型瓶は、大正～昭和初期の白粉瓶と考えられる。

■**化粧水瓶**：堀越嘉太郎商店「ホーカー液」（写真第17図版043）、平尾賛平商店「レートフード」（写真第17図版044）、橋本ケミカル「薬液ハルナー」（第17図版045）のほか、資生堂の商標である花椿マークの陽刻のある化粧水瓶（写真第17図版046）がみられる。

■**化粧クリーム瓶**：白色不透明または乳白色半透明な瓶色が多い。平尾賛平商店「レートクリーム」（写真第17図版047・048）、資生堂「乳白クリーム」（写真第17図版049）、資生堂「コールドクリーム」（写真第17図版050）、「ケンシ若肌クリーム」（写真第17図版051）、「ウテナミルククリーム」（写真第17図版052）がみられる。瓶色が濃紫色不透明の写真第17図版053・054は原料不足であった戦時下～終戦直後の化粧瓶であろうか。

■**ボマード瓶**：白色不透明または乳白色半透明な瓶色のほか、透明瓶等もある。井田京栄堂「メスマボマード」（写真第18図版055）などがみられる。化粧クリーム瓶と同様に、瓶色が濃紫色不透明の写真第18図版056は戦時下～終戦直後のものとみられる。

■**歯磨粉瓶**：大手衛生用品メーカーであるライオン株式会社は、明治24年（1891）創業の小林富次郎商店を祖とし、明治29年（1896）に粉歯磨き「獅子印ライオン歯磨」を発売、明治44年（1911）に金属チューブ入りの「ライオン練歯磨」を発売。石鹸部門を分離して大正7年（1918）に株式会社小林商店が設立され、昭和9年（1934）に発売されたのが写真第18図版058の「調製ライオン歯磨」である。粉歯磨きの欠点（飛び散る、むせる）を改善したものであった。昭和16年（1941）2月の新聞広告には「翼賛一家へ 国策容器（うつくしいがらすびん）の調製歯磨きを！」「容器は見るから感じのよい紫水晶色の硝子壺」とあり、058の瓶色と一致する表現である。戦時下の新聞広告についてはウェブサイト「東京湾要塞 三浦半島・房総半島戦争遺跡探訪／軍事物」に詳しい。

〔文具瓶〕

■**インク瓶**：当初、万年筆のインクは高価な海外からの輸入品に頼っており、明治時代中頃から丸善が国産のインク製造を開始した。写真第18図版059は背が低く細口の首が瓶の端から出ている「くつ形瓶」で、イギリス形インク瓶を真似たものとされている。写真第18図版060標準的な形状の小型インク瓶。写真第18図版061は角形の「セーラーダイヤインキ」、写真第18図版062は「サンエスインキ」、写真第18図版063は底面に「SIMCOマーク」のある篠崎インキ製造「ライトインキ」である。

〔日常生活瓶〕

■**染料瓶**：雪輪化工「ゆきわ染」（写真第19図版068）、桂屋「みやこ染」（写真第19図版069～071）は家庭用繊維染料の瓶、写真第17図版072は増井商店の食紅の瓶である。

③ガラス製品

〔ガラスコップ〕

■**アンカーコップ**：島田硝子製作所（現 東洋佐々木ガラス）が昭和13年（1938）に食料品缶詰代用の容器

として製造を開始した再生ガラスのコップで、生産統制下で不足していたブリキの代用として大量に使用された。「(CANマーク)」は高田硝子の商標、「アンカー3号」はコップのサイズのものである。当時貼られていた紙ラベルが残るものもあり、食料品だけでなく歯磨粉の販売容器としても使用されていた(佐野宏明2019)。

③廃棄土坑のガラス瓶の組成

細谷地遺跡第41次調査RD935廃棄土坑から出土したガラス瓶の個体数は、写真掲載と台帳登録したもの(概ね完形または完形まで復元でき分類が可能なもの)の合計で143点を数え、廃棄土坑1基あたりの出土数は細谷地遺跡南東部35基の中で最多である。年代的には明治時代～昭和20年代にまとまる資料であり、種類別に集計したのがグラフ1である。薬瓶と化粧瓶で5割強を占める一方、酒瓶・清涼飲料瓶・乳製品瓶・調味料瓶・食品瓶という飲食系の瓶と、文具瓶・日常生活瓶の比率が拮抗している。これまで第37・38・40次調査で出土したガラス瓶合計462点(明治時代～昭和50年代)の組成であるグラフ2と比較すると、第41次調査RD935は飲食系の瓶の比率が低く、文具瓶・日常生活瓶の比率が高い。全体の傾向としては、盛岡市・盛岡市教育委員会2021で指摘したように、都市近郊農村部のガラス瓶組成の中にあるようだが、種類別の違いは廃棄個体数の違いによる誤差や、ガラス瓶を廃棄した各世帯のライフスタイル・嗜好の違いを反映していると考えられる。

謝辞

戦時下の陶磁器について、多治見市美濃焼ミュージアム(旧岐阜県陶磁資料館)、瑞浪市陶磁資料館より展示図録及び研究紀要を当館に提供いただいた。記して感謝申し上げる。

【引用・参考文献】

■近世陶磁器関係

花巻市博物館 2004『花巻市博物館常設展示図録』

盛岡市遺跡の学び館 2010『第9回企画展「もりおかで焼かれた“やきもの”-セトモノから煉瓦まで-』図録』

盛岡市遺跡の学び館 2014『開館10周年特別展「もりおか発掘物語」図録』

盛岡市教育委員会 2019『平成28・29年度盛岡市埋蔵文化財調査報告書 山盛焼窯跡-市営上水道管敷設工事等に伴う緊急発掘調査-』

■近現代陶磁器関係

岐阜県現代陶芸美術館 2016『セラミックス・ジャパン 陶磁器でたどる日本のモダン』図録

財団法人岐阜県陶磁資料館 2008『萩谷コレクション 全国の戦時中のやきもの』図録

財団法人岐阜県陶磁資料館 2001『特別展 戦時中の統制したやきもの』図録

庄内昭男 2010『陶磁器から見た昭和時代の秋田-秋田県内発見の統制陶磁器を中心として-』『秋田県立博物館研究報告第35号』

長佐古真也 2007『続・お茶碗考-近代・現代の中形碗に飯碗を探る-』『考古学が語る日本の近現代』同成社

萩谷茂行 2013『統制経済下における陶磁器製品製造、流通の一考察-いむゆる「統制番号」に関する検証-』『瑞浪市歴史資料集第2集』瑞浪市陶磁資料館

萩谷茂行 2017『陶磁器代用品の誕生と発展』『瑞浪市歴史資料集第4集』瑞浪市陶磁資料館

舟橋 健 2015「番号の付けられたやきもの～紀年銘のある製品と瑞浪の製品にみられる特徴～」[瑞浪市歴史資料集 第3集] 瑞浪市陶磁資料館

瑞浪市陶磁資料館 2012「番号の付されたやきもの 戦時下の瑞浪窯業生産」図録

桃井勝・萩谷茂行・舟橋健 2010「伝世品にみる戦時中の美濃焼～産地と製品傾向～」[瑞浪市陶磁資料館研究紀要第13号]

■ガラス瓶関係

石川県能登島ガラス美術館 2009「企画展 ガラスびん展～時代をうつすガラスたち～」図録

川島智生2013「アサヒビール所蔵資料でたどる近代日本のビール醸造史と産業遺産」淡文社

神原雄一郎2011「盛岡の地中から発見されたガラス瓶 明治から昭和にかけてのガラス瓶」盛岡市道跡の学び館

麒麟麦酒株式会社 1967「麒麟麦酒株式会社五十年史」

キリンビール編1984「ビールと日本人 明治・大正・昭和ビール普及史」三省堂

キリンビール株式会社2017「図説 ビール」河出書房新社

桜井準也 2004「モノが語る日本の近現代生活～近現代考古学のすずめ～」慶應義塾大学教養研究センター選書

桜井準也2006「ガラス瓶の考古学」六一書房（2019増補）

佐野宏明編 2019「モダン図案 明治・大正・昭和のコスメチックデザイン」光村推古書院

庄司太一 1997「びんだま飛ばそ」バルコ出版

杉並区立郷土博物館分館 2009「企画展「硝子壺の残像～ガラスびんに映った杉並の風景～」展示図録」

大日本麦酒株式会社 1936「大日本麦酒株式会社三十年史」

端田晶 2016「ぶはっとうまい～日本のビール面白ヒストリー 大日本麦酒の誕生」雷鳥社

平成ボトルクラブ監修2017「日本のレトロびん」グラフィック社

盛岡市道跡の学び館 2019「令和元年度テーマ展「過ぎとおった記録～ガラスにみる明治・大正・昭和～」展示解説資料」

盛岡市・盛岡市教育委員会 2020「盛南地区道跡群発掘調査報告書XII～道明地区土地区画整理事業関連道跡平成29年度発掘調査～ 細谷地道跡」

盛岡市・盛岡市教育委員会 2021「盛南地区道跡群発掘調査報告書XIII～道明地区土地区画整理事業関連道跡平成30・令和元年度発掘調査～ 細谷地道跡」

山本孝造1990「びんの話」日本能率協会

Peter Schulz, Bill Lockhart, Carol Serr, Bill Lindsey, and Beau Schriever 2019 "A History of Non-Returnable Beer Bottles"

挿表2 細谷地遺跡出土近現代陶磁器統制番号一覧(昭和16~21年)

番号	所属組合	印字様式・色	種別	器種	胎付等	胎納等	その他特徴	数量	調査年度	通称名	台帳番号	発掘報告書	写真図録
統 91	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗	染付・吹き絵	富士山		1	37	RD004	No.013	2020福岡12	第3602頁
統 124	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	碗	染付	黒一色		1	37	RD005	No.012	2020福岡12	第3603頁
統 620	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	湯呑	上絵	草花文		1	37	RD912	No.055	2020福岡12	第3602頁
統 710	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	インク瓶か	不明	不明	代用品	1	37	RD003	No.051	2020福岡12	第3603頁
統 955	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	陶器	鍋	染付	黒一色	代用品	1	37	RD003	No.044	2020福岡12	第3602頁
統 1098	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	皿	染付・ゴム印刷	草文		1	37	RD004	No.038	2020福岡12	第3602頁
番号	所属組合	印字様式・色	種別	器種	胎付等	胎納等	その他特徴	数量	調査年度	通称名	台帳番号	発掘報告書	写真図録
統 172	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	皿	輪下彫・ゴム印刷	梅花文		1	38	RD003	No.036	2021福岡13	第1102頁
統 452	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	湯呑	染付・ゴム印刷	松島文		1	38	RD003	No.037	2021福岡13	第1102頁
統 672	岐阜県陶磁器工業組合連合会	磁引 (緑文字)	磁器	化粧 クリーム皿	白磁	裏印「(クテナ マーク)」	代用品	1	38	RD916	No.052	2021福岡13	第1102頁
統 (不明)	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗	染付・吹き絵	草本文		1	38	RD003	No.003	2021福岡13	第1102頁
番号	所属組合	印字様式・色	種別	器種	胎付等	胎納等	その他特徴	数量	調査年度	通称名	台帳番号	発掘報告書	写真図録
統 932	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	丼碗	上絵	草花文+ 樹竹文		1	40	RD031	No.011	2021福岡13	第1902頁
統 945	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	丼碗	上絵	草花文+ 樹竹文		1	40	RD031	No.012	2021福岡13	第1902頁
番号	所属組合	印字様式・色	種別	器種	胎付等	胎納等	その他特徴	数量	調査年度	通称名	台帳番号	発掘報告書	写真図録
統 31	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗 (子ども用)	染付・手描き	東洋文		1	41	RD035	No.163	2022福岡14	第902頁
統 40	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗	染付・ゴム印刷	風景文		2	41	RD035	No.152	2022福岡14	第902頁
統 91	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗	染付・吹き絵	風景文		3	41	RD035	No.154	2022福岡14	第902頁
統 95	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	煎茶碗	輪下彫・吹き絵	富士山文		3	41	RD035	No.157	2022福岡14	第902頁
統 109	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗 (子ども用)	上絵	草花文		1	41	RD035	No.168	2022福岡14	第902頁
統 143	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・緑色	磁器	碗	染付	緑色二重線 「ヤマカ陶器」	国民食器	1	41	RD035	No.170	2022福岡14	第1002頁
統 201	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	軍蓋	上絵	草花文	鉄契形	1	41	樹出面	No.009	2022福岡14	第1002頁
統 304	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	煎茶碗 (子ども用)	上絵	縁紋文+花文		1	41	RD035	No.165	2022福岡14	第902頁
統 318	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	皿	染付・ゴム印刷	風景文		5	41	RD035	No.366	2022福岡14	第1002頁
統 326	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・緑色	磁器	皿	上絵	花木文	許27272	1	41	RD035	No.394	2022福岡14	第1002頁
統 343	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・緑色	磁器	煎茶碗 (子ども用)	上絵	花文		1	41	RD035	No.166	2022福岡14	第902頁
統 381	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	湯呑	染付・ゴム印刷	松竹梅文		3	41	RD035	No.406	2022福岡14	第1002頁
統 391	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・緑色	磁器	湯呑	染付	緑色二重線	国民食器	1	41	RD035	No.487	2022福岡14	第1002頁
統 406	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	碗	染付	緑色二重線	国民食器	1	41	RD035	No.171	2022福岡14	第1002頁
統 452	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・青色	磁器	湯呑	染付・ゴム印刷	松島文		2	41	RD035	No.498	2022福岡14	第1002頁
統 488	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	皿	染付・ゴム印刷	風景文		1	41	RD035	No.365	2022福岡14	第1002頁
統 682	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	化粧 クリーム皿	陶軸	なし	代用品	1	41	RD035	No.564	2022福岡14	第1002頁
統 779	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・緑色	磁器	化粧 クリーム皿	白磁	なし	代用品	1	41	RD035	No.558	2022福岡14	第1002頁
統 870	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	化粧 クリーム皿	褐色釉	なし	代用品	1	41	RD035	No.561	2022福岡14	第1002頁
統 1056	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	湯鉢	上絵	東洋文	許27280	1	41	RD035	No.146	2022福岡14	第1002頁
統 1077	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	陶器	甗	オリーブ色釉	なし		1	41	RD035	No.026	2022福岡14	第902頁
統 1183	岐阜県陶磁器工業組合連合会	染付・緑色	陶器	化粧 クリーム皿	染付	「P」	代用品	1	41	RD035	No.056	2022福岡14	第1002頁
統 (不明)	岐阜県陶磁器工業組合連合会	無し	磁器	洋鉢	上絵	不明	許27285	1	41	RD035	No.407	2022福岡14	第1002頁
有 48	有田陶磁器工業組合(佐賀県)	染付・青色	磁器	煎茶碗	染付・手描き	縁紋文		1	41	RD035	No.151	2022福岡14	第902頁
満 526	瀬戸陶磁器工業組合(愛知県)	染付・青色	磁器	煎茶碗	染付・ゴム印刷	花文		4	41	RD035	No.148	2022福岡14	第902頁
満 253	瀬戸陶磁器工業組合(愛知県)	染付・青色	磁器	皿	染付+上絵	緑色二重線 花文	国民食器	1	41	RD035	No.363	2022福岡14	第1002頁
セ 934	瀬戸陶磁器工業組合(愛知県)	無し	陶器	鍋	陶軸	なし	代用品	1	41	RD035	No.018	2022福岡14	第1102頁
品 123	品野陶磁器工業組合(愛知県)	無し	磁器	小鉢	上絵	木葉集合形		1	41	RD035	No.405	2022福岡14	第1002頁

第1表 細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶観票(1)

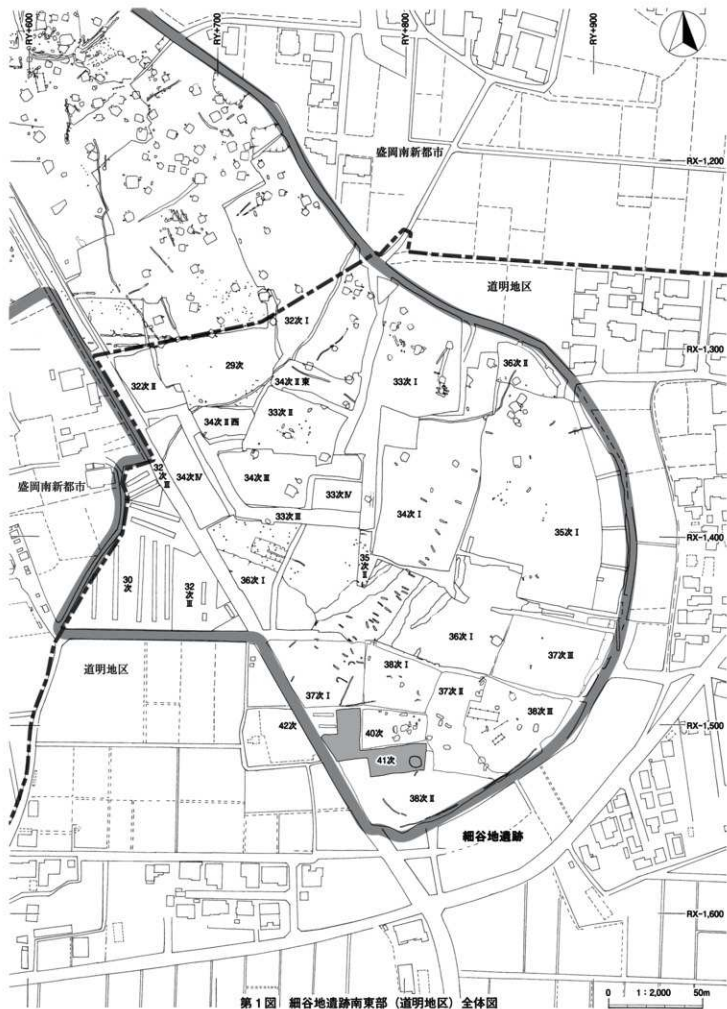
写真 品番	遺構名	台帳 No.	分類 用途	総分	寸法(cm)						形状	色調・ 気泡等	羅列・印等	社名・商品名・ 製造会社等	年代					
					全高	口径	胴高	底高	口部	首部						胴部	底部			
12	001	RD935	027	酒瓶	ビール瓶	(26.5)	-	7.9	6.6	欠腕	長筒	なで肩	断面円形	ネック	欠腕	緑色不透明	羅列底 「(YGマーク)」か	人工吹き、不明	明治30~ 40年代	
12	002	RD935	001	酒瓶	ビール瓶	(24.7)	-	7.8	6.8	細口	長筒	いかり肩	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(YVマーク)」か	大日本麦酒(1906-49) アサヒビール エビノビール 「マツコビール」	昭和初期 ~20年代	
12	003	RD935	002	酒瓶	ビール瓶	(20.5)	-	-	-	欠腕	欠腕	なで肩	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(YBマーク)」か	豊後麦酒(1907-) 「カシノビール」	昭和初期~ 20年代	
12	004	RD935	017	酒瓶	ビール瓶 (アリの跡)	(10.1)	-	-	6.7	欠腕	欠腕	欠腕	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(LDマーク)」か	豊後麦酒(1912設立) 「カシノビール」 旭麦酒(1929-1943) 「宇治ビール」	大正2~ 昭和18年	
12	005	RD935	016	酒瓶	ビール瓶 (アリの跡)	(4.2)	-	-	-	欠腕	欠腕	欠腕	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(NIPPON GREEN MARK)」	日本麦酒(1907- 23) 「アサヒビール」	大正11~ 昭和6年	
12	006	RD935	003	酒瓶	ビール瓶 (アリの跡)	(17.3)	2.6	6.8	5.7	細口	短筒	なで肩	断面円形	平底	王冠栓	緑色半透明	羅列底 「(LDマーク)」か	アメリカ産製薬フロンティア 「カシノビール」 キヤング社製	昭和20年 年代初頭	
12	007	RD935	021	酒瓶	ビール瓶 (アリの跡)	(6.6)	-	-	5.7	欠腕	欠腕	欠腕	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(LDマーク)」	アメリカ産製薬フロンティア 「カシノビール」 「ハルマ」 「マーズ」製	昭和20年 年代初頭	
12	008	RD935	023	酒瓶	ビール瓶 (アリの跡)	(3.2)	-	-	5.8	欠腕	欠腕	欠腕	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(CB50)」 「(Dumark)」 「(Yマーク)」	アメリカ産製薬フロンティア 「カシノビール」 「オースレイ」 「アリス」製	昭和20年代 初頭	
12	009	RD935	026	酒瓶	漬漬瓶 (一弁瓶)	(36.6)	-	10.6	9.6	欠腕	長筒	なで肩	断面円形	上蓋	欠腕	淡青色透明	羅列底 「(ハマー)」	不明	昭和初期~ 20年代	
12	010	RD935	210	酒瓶	漬漬瓶 (一弁瓶)	(14.0)	3.1	-	-	細口	長筒	欠腕	欠腕	欠腕	縦線状	淡青色透明	なし	人工吹き、不明	明治末~ 大正期	
12	011	RD935	219	酒瓶	漬漬瓶 (両弁瓶)	(10.3)	2.9	-	-	細口	長筒	欠腕	欠腕	欠腕	コルク栓	淡青色透明	なし	人工吹き、不明	明治後半 か	
写真 品番	遺構名	台帳 No.	分類 用途	総分	寸法(cm)						形状	色調・ 気泡等	羅列・印等	社名・商品名・ 製造会社等	年代					
					全高	口径	胴高	底高	口部	首部						胴部	底部			
12	012	RD935	045	漬漬飲料 瓶	サチー瓶 (両弁瓶)	(6.5)	-	-	6.1	欠腕	長筒	なで肩	断面円形	平底	欠腕	緑色半透明	羅列底 「(金線)」 「(C)」	株式会社「金線」 「スター」(1939)発売、1915 金線社製	大正32年 大正期	
12	013	RD935	039	漬漬飲料 瓶	サチー瓶	(22.2)	-	6.8	5.3	欠腕	長筒	いかり肩	断面円形	平底	欠腕	淡緑色透明	羅列底 「(KINSEI)」 「(C)」	日本麦酒(1922-33) 「カシノビール」 「スター」(1939)発売、1915 金線社製	大正14~ 昭和6年	
12	014	RD935	038	漬漬飲料 瓶	サチー瓶	24.0	2.6	6.4	5.7	細口	長筒	なで肩	断面円形	平底	王冠栓	緑色透明	羅列底 「(LDマーク)」	キヤング社製	昭和3~ 20年代 初頭	
12	015	RD935	049	漬漬飲料 瓶	みかん本瓶	(8.6)	-	-	2.9	欠腕	欠腕	断面円形	平底	欠腕	緑色透明	なし	羅列底 「(カシノ)」	不明	大正~ 昭和初期	
12	016	RD935	048	漬漬飲料 瓶	二本本瓶	(8.4)	-	-	1.8	欠腕	長筒	断面円形	平底	欠腕	緑色透明	なし	羅列底 「(3B)」	不明	大正~ 昭和初期	
写真 品番	遺構名	台帳 No.	分類 用途	総分	寸法(cm)						形状	色調・ 気泡等	羅列・印等	社名・商品名・ 製造会社等	年代					
					全高	口径	胴高	底高	口部	首部						胴部	底部			
14	017	RD935	171	乳製品瓶	牛乳瓶	18.0	2.1	5.1	4.2	細口	長筒	なで肩	断面円形	ネック	縦線状	なし	なし	人工吹き、不明	明治後半 か	
14	018	RD935	172	乳製品瓶	牛乳瓶	(7.3)	-	-	5.5	4.7	細口	長筒	なで肩	断面円形	ネック	欠腕	淡青色透明 気泡	なし	人工吹き、不明	明治後半 か
14	019	RD935	173	乳製品瓶	牛乳瓶	(25.0)	-	-	5.8	4.7	細口	長筒	なで肩	断面円形	平底	欠腕	淡青色透明 気泡	羅列底 「(三好)」	不明	明治後半~ 大正初期
14	020	RD935	052	乳製品瓶	牛乳瓶	19.5	2.6	5.4	4.2	細口	長筒	なで肩	断面円形	平底	王冠栓	緑色透明 気泡	羅列底 「(北条)」 「(北条)」 「(北条)」 「(北条)」	北条社(北条、1871)創 業、北条製菓 (1900c.)製(迄年未)	昭和初期 ~20年代	
14	021	RD935	053	乳製品瓶	牛乳瓶	19.8	3.4	4.5	-	細口	短筒	なで肩	断面方形	欠腕	コルク 栓	緑色透明 気泡	羅列底 「(全乳)」 「(1-AO)」 「(丸)」	不明	昭和初期 ~20年代	
写真 品番	遺構名	台帳 No.	分類 用途	総分	寸法(cm)						形状	色調・ 気泡等	羅列・印等	社名・商品名・ 製造会社等	年代					
					全高	口径	胴高	底高	口部	首部						胴部	底部			
15	022	RD935	167	調味料瓶	かー瓶	17.2	2.8	5.1	4.2	細口	長筒	なで肩	断面十角	平底	スクリュー	緑色透明 気泡	羅列底 「(日産)」 「(日産)」	日産製油(1927) 「(日産)」 「(日産)」	昭和5~10 年代前半	
15	023	RD935	061	調味料瓶	かー瓶	13.9	2.8	3.9	3.2	細口	長筒	なで肩	断面円形	平底	王冠栓	淡緑色透明 気泡	羅列底 「(日産)」 「(日産)」	日産製油(1927) 「(日産)」 「(日産)」	昭和14~ 19年	
15	024	RD935	060	調味料瓶	かー瓶	14.9	1.9	4.6x 1.7	(4.0) x1.7	細口	長筒	なで肩	断面扁平 楕円 「(日産)」	平底	コルク 栓	淡青色透明 気泡	なし	不明	昭和10~ 20年代	
写真 品番	遺構名	台帳 No.	分類 用途	総分	寸法(cm)						形状	色調・ 気泡等	羅列・印等	社名・商品名・ 製造会社等	年代					
					全高	口径	胴高	底高	口部	首部						胴部	底部			
15	025	RD935	177	食品瓶	金平瓶	(13.6)	-	-	6.6x 2.7	細口	短筒	水筒形	断面八角	一	スクリュー	緑色透明 気泡	羅列底 「(SKマーク)」	不明	大正~ 昭和初期	
15	026	RD935	181	食品瓶	食品瓶	11.4	5.2	7.1	5.4	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	縦線状	緑色透明	なし	不明	大正~ 昭和初期	
15	027	RD935	180	食品瓶	食品瓶	10.8	5.5	7.2	5.8	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	縦線状	緑色透明 気泡	羅列底 「(SKマーク)」	不明	昭和16~ 20年代	

第2表 細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶観察表(2)

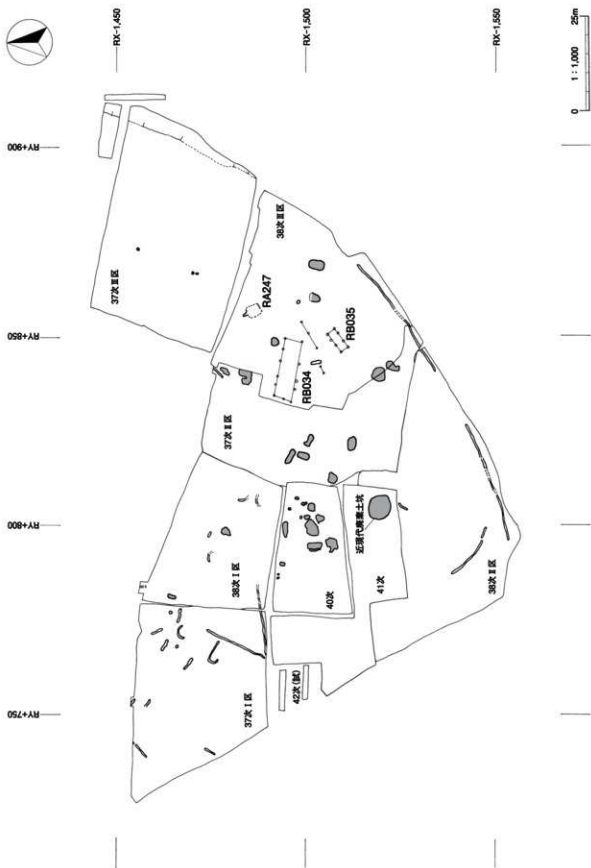
調査番号	遺構名	台帳No.	分類 用途	形状	寸法(cm)								校核	色・気味・気味	類似印刷等	社名・商品名・製造会社名	年代		
					全高	口径	筒径	底径	口部	首部	肩部	胴径						底径	
15	026	R005	062	薬瓶	直筒筒身	21.0	2.5	7.3	6.3	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(日本赤十字社 日本赤十字社 製薬 部下製「リウマック」)	日本赤十字社 製薬部(1915-42, 昭和 赤十字製薬)	大正9年 昭和17年
15	029	R005	063	薬瓶	直筒筒身	13.3	2.0	5.8 4.7	4.3	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(丸印・目録 「200」(Cマーク))	不明	大正一昭和 昭和初期
15	030	R005	064	薬瓶	直筒筒身	10.5	1.9	4.8	4.2	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(「C」マーク)	不明	大正一昭和 昭和初期
15	031	R005	066	薬瓶	直筒筒身	8.8	1.8	3.0	3.4	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(丸印・目録 「丸」(Cマーク))	不明	大正一昭和 昭和初期
15	032	R005	067	薬瓶	直筒筒身	6.7	1.5	3.1	2.9	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	淡黄色不 透明気味	黒印刷(丸印)	不明	大正一昭和 昭和初期
16	033	R005	086	薬瓶	一般筒身	11.5	2.9	5.1	4.7	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	褐色透明 気味	黒印刷(「共存理栄 保マーク」・特種 「ZENKOHEN」)	全理栄(1922全理栄製 薬株式会社, 1940-43全 理栄製薬株式会社)	大正13年 昭和18年
16	034	R005	088	薬瓶	一般筒身	6.2	2.3	4.8 3.8 2.9	2.0	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	無色透明 気味	黒印刷「HANUS」 「UKATOマーク」	「HANUS」 (1949年)・「UKATO」 (1949年)	大正一昭和 昭和初期
16	035	R005	123	薬瓶	軟膏瓶	5.1	3.7	4.1	3.8	広口	短筒	円錐形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明 気味	黒印刷「METHOLAM」 (REG. TRADE MARK)	「METHOLAM」 (1949年)	大正一昭和 昭和初期
16	036	R005	062	薬瓶	日薬瓶	(5.9)	1.4	—	3.1	細口	短筒	いかり形	断面八角形	欠損	コルク	無色透明 気味	黒印刷(日薬「太郎」上 漆塗, スズイロ印)	「日薬」上漆塗	大正初期
16	037	R005	096	薬瓶	日薬瓶	6.0	1.5	2.3	2.2	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(日薬「太郎」 上漆塗, スズイロ印)	不明	明治中 大正初期
16	038	R005	093	薬瓶	日薬瓶	5.8	1.6	2.3	2.2	細口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク	コバルト色 透明気味	黒印刷(日薬「太郎」 上漆塗, スズイロ印)	不明	明治中 大正初期
16	039	R005	097	薬瓶	日薬瓶 (スズイロ 一色型)	7.5	1.6	2.3 1.6	—	細口	短筒	いかり形	断面八角形	スゴイ	上部は スズイロ 透明気味	黒印刷(日薬「太郎」 上漆塗, スズイロ印)	不明	明治中 大正初期	
16	040	R005	098	薬瓶	錠剤瓶	(21.8)	—	6.3	5.2	細口	長筒	なで形	断面円形	平底	欠損	淡黄色不 透明気味	黒印刷(「青葉本舗 大下田堂」「青葉特約 アムール」右読み, 星 「C」)	大下田堂(1900製薬 1999株式会社-1927年) アムール(1927年) 「C」(1948発売)	大正13年 昭和18年
調査番号	遺構名	台帳No.	分類 用途	形状	寸法(cm)								校核	色・気味・気味	類似印刷等	社名・商品名・製造会社名	年代		
16	041	R005	164	化粧瓶	白粉瓶	4.9	2.7	3.4	3.2	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	コルク か	乳白色 不透明	黒印刷(「輪田」)	輪田製薬(1899製 薬)・「輪田」(1902 発売)	明治中期
16	042	R005	111	化粧瓶	白粉瓶	4.4	3.9	5.0	4.8	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	ガラス 検か	無色透明	不明	不明	明治中 大正初期
17	043	R005	087	化粧瓶	化粧水	9.4	2.2	3.8 2.4	2.4	細口	短筒	いかり形	断面八角形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(「星山」(ホ カ一色)「星山」)	星山製薬(1906製 薬)	大正期
17	044	R005	106	化粧瓶	化粧水	11.3	2.0	5.1 4.7 3.0	3.0	細口	短筒	いかり形	断面六角形	平底	コルク	無色透明 気味	黒印刷(「Lait」 「Lait」)	平塚製薬(1878- 1954)「Lait」(1915 発売)	昭和初期
17	045	R005	099	化粧瓶	化粧水	11.5	0.8	4.5 3.8 2.1	2.1	細口	短筒	いかり形	断面八角形	平底	スクリュー	緑色透明 気味	黒印刷(「薬液ハルナ」)	源生堂(1902製薬)	昭和初期 昭和20年代
17	046	R005	101	化粧瓶	化粧水	11.4	1.1	5.8 4.8 2.4	2.4	細口	短筒	いかり形	断面六角形	平底	スクリュー	緑色透明 気味	黒印刷(「花梅標」)	源生堂(1922製薬, 源 生堂「花梅」1915)	昭和初期
17	047	R005	112	化粧瓶	化粧 クリーム	5.8	3.9	3.2	3.5	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明	黒印刷(丸印・目録 「丸」)	平塚製薬(1878- 1954)「クリーム」 (1915発売)	大正一昭和 昭和初期
17	048	R005	114	化粧瓶	化粧 クリーム	4.4	3.8	4.4	4.1	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明	黒印刷(丸印・目録 「丸」)	平塚製薬(1878-1954 「クリーム」)	大正一昭和 昭和初期
17	049	R005	120	化粧瓶	化粧 クリーム	6.1	—	4.9	3.3	広口	短筒	なで形	断面円形	平底	ガラス 検か	白色不透明 気味	黒印刷(「花梅マーク」)	源生堂(1922製薬, 源 生堂「花梅」1915) 「丸」	大正一昭和 昭和初期
17	050	R005	119	化粧瓶	化粧 クリーム	3.8	3.8	6.0	4.0	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明 気味	黒印刷(「花梅マーク」)	源生堂(1922製薬, 源 生堂「花梅」1915) 「丸」	大正一昭和 昭和初期
17	051	R005	118	化粧瓶	化粧 クリーム	5.8	3.8	4.9	3.9	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明 気味	黒印刷(「ケン」)	ケン製薬(1914製薬 「ケン」(1948発売))	昭和20年 代
17	052	R005	115	化粧瓶	化粧 クリーム	5.4	3.5	4.5	3.4	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明 気味	黒印刷(「薬標」)	不明	昭和27年 以降
17	053	R005	136	化粧瓶	化粧 クリーム	6.1	3.6	4.6	3.3	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	濃黄色不 透明気味	なし	不明	昭和初期
17	054	R005	135	化粧瓶	化粧 クリーム	5.1	3.6	4.6	3.8	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	濃黄色不 透明気味	なし	不明	昭和初期
18	055	R005	126	化粧瓶	ボート瓶	3.7	4.7	6.1	5.4	広口	短筒	円錐形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明 気味	黒印刷(丸印・目録 「丸」)	平田堂(1910製薬 「丸」1948) 「丸」(1979発売)	大正一昭和 昭和初期
18	056	R005	139	化粧瓶	ボート瓶	4.6	4.6	5.8	5.3	広口	短筒	円錐形	断面円形	平底	スクリュー	濃黄色不 透明気味	黒印刷(丸印・目録 「丸」)	不明	昭和初期 昭和20年代
18	057	R005	104	化粧瓶	製薬料瓶	8.3	0.6	5.3 4.8 1.4	1.4	細口	短筒	いかり形	断面六角形	平底	スクリュー	緑色透明 気味	黒印刷(「千代田」)	山岸商店(「千代田」製 薬)	大正一昭和 昭和初期
18	058	R005	140	化粧瓶	歯磨粉瓶	6.6	6.0	7.3	5.4	広口	短筒	いかり形	断面円形	平底	スクリュー	濃黄色不 透明気味	黒印刷(「Lion」)	小林製薬(1910製薬 「Lion」)	昭和15年 昭和24年頃

第3表 細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶観察表 (3)

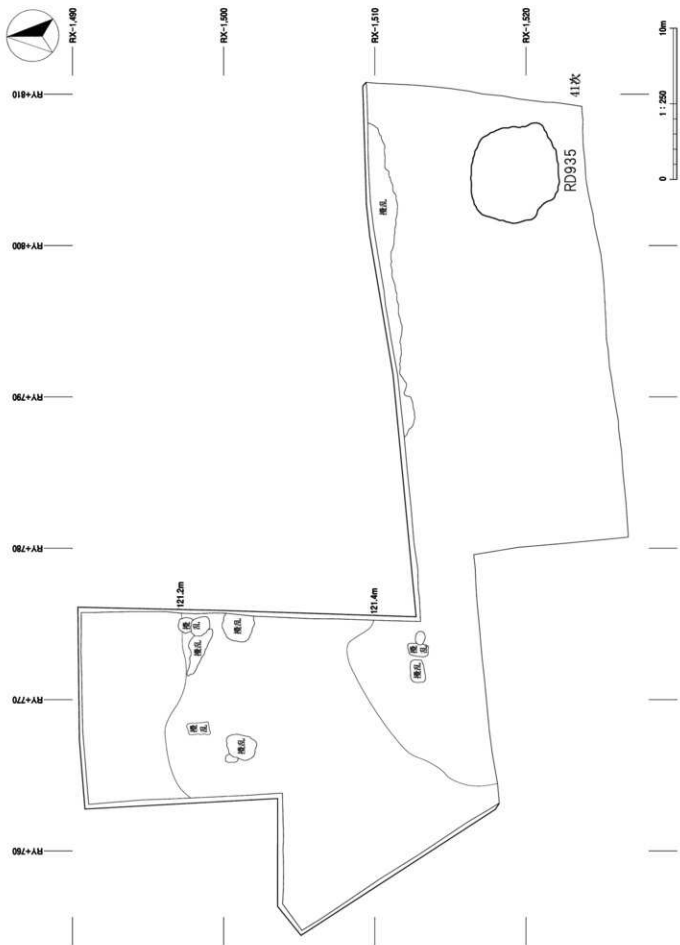
写真 遺跡番号	遺物名	台帳 No.	分類		寸法(cm)								形状	色紙・ 気泡等	随刻・印類等	社名・商品名・ 製造会社等	年代		
			用途	細分	全高	口径	胴幅	底面	口部	肩部	腹部	胴部						底部	
18 059	R0035	189	文具瓶	インク瓶	(2.7)	-	4.7	4.6	文様	くつ形	断面円形	平底	文様	無色透明	随刻底「藤原」	不明	大正～昭和初期		
18 060	R0035	144	文具瓶	インク瓶		4.6	1.9	3.8	3.3	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	ステ リュウ	淡緑色透明 随刻底「2」	不明	大正～昭和初期	
18 061	R0035	143	文具瓶	インク瓶		5.6	2.3	4.1× 3.5	4.8× 3.3	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	ステ リュウ	無色透明 随刻底「Salko」 「5oz Ink」	キラー万年筆原田製 作所(1911創業,1932 株式会社)「キラー」 ダイヤインキ	昭和初期	
18 062	R0035	141	文具瓶	インク瓶		6.8	3.3	5.8	5.3	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	コルク	淡青色透明 気泡	随刻底「S. S. S.」	サイエンス株式会社「サ イエンス株式」	昭和初期
18 063	R0035	142	文具瓶	インク瓶		5.9	2.5	3.5	4.2	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	コルク	無色透明 気泡	随刻底「(SIMCOマーク)」	藤原シシキ製 造(1884創業)「ライ オン」	昭和初期
18 064	R0035	188	文具瓶	鞆瓶		3.7	4.4	4.7	3.4	広口	短筒	円筒形	断面円形	平底	ステ リュウ	淡青色透明 気泡	なし	人工吹き,不明	明治後半
18 065	R0035	147	文具瓶	鞆瓶		5.1	4.0	4.6	3.6	広口	短筒	円筒形	断面円形	平底	ステ リュウ	淡青色透明 気泡	なし	不明	昭和初期
18 066	R0035	148	文具瓶	鞆瓶		5.6	4.0	4.6	4.3	広口	短筒	円筒形	断面円形	平底	ステ リュウ	淡青色透明 気泡	なし	不明	昭和初期
写真 遺跡番号	遺物名	台帳 No.	分類		寸法(cm)								形状	色紙・ 気泡等	随刻・印類等	社名・商品名・ 製造会社等	年代		
用途	細分	全高	口径	胴幅	底面	口部	肩部	腹部	胴部	底部									
19 067	R0035	151	日常生活瓶	靴墨瓶		3.9	5.0	5.6	5.4	広口	短筒	円筒形	断面円形	平底	ステ リュウ	淡緑色透明 気泡	随刻底「日靴塗等」右 読み	日靴塗部	昭和10年 代
19 068	R0035	162	日常生活瓶	染料瓶		6.0	2.3	3.2	2.7	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	コルク	淡青色透明 気泡	随刻底「ゆきわ染」右 読み	雪輪化工「ゆきわ染」	大正～昭和初期
19 069	R0035	161	日常生活瓶	染料瓶		6.2	2.0	3.3	2.7	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	コルク	無色透明 気泡	随刻底「みや古染」 随刻底「2」	桂屋(1890創業) 中込染(1896発売)	大正～昭和初期
19 070	R0035	159	日常生活瓶	染料瓶		4.4	2.7	3.3	2.8	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	ステ リュウ	無色透明 気泡	随刻底「みや古染」 随刻底「5」	桂屋(1890創業) 中込染(1896発売)	大正～昭和初期
19 071	R0035	160	日常生活瓶	染料瓶		5.3	2.6	3.3	2.8	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	ステ リュウ	無色透明 気泡	随刻底「みや古染」 随刻底「22」	桂屋(1890創業) 中込染(1896発売)	大正～昭和初期
19 072	R0035	163	日常生活瓶	染料瓶		4.6	1.9	2.6	2.4	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	コルク または 紙製	無色透明 気泡	随刻底「増井製」 「(商標)」	増井商店 青紅	昭和20年 代
19 073	R0035	165	日常生活瓶	染料瓶		4.1	1.7	2.5	2.2	広口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	コルク または 紙製	無色透明 気泡	なし	不明	大正～昭和初期
19 074	R0035	166	日常生活瓶	染料瓶		6.3	1.5	3.1×2.9× 1.9	1.6	細口	短筒	いかり肩	断面楕円 八角形	平底	コルク または 紙製	淡緑色透明 気泡	なし	不明	大正～昭和初期
19 075	R0035	107	日常生活瓶	ラウター オイル瓶		6.2	0.4 (0.5)	2.5	2.2	細口	短筒	いかり肩	断面円形	平底	ステ リュウ	無色透明 気泡	随刻底,ラベル特	不明	大正～昭和初期



第1図 細谷地遺跡南東部(道明地区)全体図

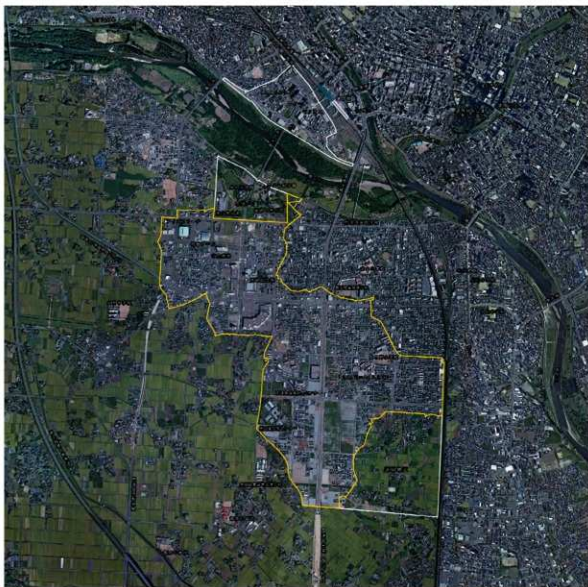


第2図 細谷地遺跡第37・38・40～42次調査区全体図



第3図 細谷地遺跡第41次調査区全体図

写 真 图 版



盛岡南新都市土地区画整理事業区域(黄色)・道明地区土地区画整理事業変更前区域(右下白線)(平成24年撮影)



道明地区土地区画整理事業変更後区域(赤線)

第1図版 盛南開発地区航空写真



第41次調査区全景(南から)



RD935近現代廃棄土坑・土層断面・遺物出土状況



肥前染付



瀬戸染付



山藤染付



花古染付手あぶり(No.028)



備前・瀬戸美濃・相馬大堀系



寺町焼・花巻鍛冶町焼



寺町焼灰軸甕(No.001)



花巻鍛冶町焼甕(No.008)



煙管(No.006・007)

第3図版 細谷地遺跡第41次調査出土近世陶磁器・金属製品



飯茶碗(RD935.No.001)
型紙刷



飯茶碗(RD935.No.005)
型紙刷



飯茶碗(RD935.No.010)
型紙刷



飯茶碗(RD935.No.018)
銅版刷



飯茶碗(RD935.No.023)
銅版刷



飯茶碗(RD935.No.024)
銅版刷



飯茶碗(RD935.No.030)
銅版刷



飯茶碗(RD935.No.042)
銅版刷



飯茶碗(RD935.No.048)
銅版刷



飯茶碗(RD935.No.083)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.082)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.074)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.079)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.061)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.064)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.072)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.077)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.077)
ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.085)
子ども用, ゴム印判



飯茶碗(RD935.No.117)
吹き絵



飯茶碗(RD935.No.111)
吹き絵



飯茶碗(RD935.No.121)
吹き絵



飯茶碗(RD935.No.107)
手描き



飯茶碗(RD935.No.125)
染付, 上絵

第4図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (1)



飯茶碗(RD935.No.130)
子ども用, 上絵, 女兒, 鴉・雛



飯茶碗(RD935.No.129)
子ども用, 上絵, 女兒, 歌詞



飯茶碗(RD935.No.137)
子ども用, 上絵, 花



飯茶碗(RD935.No.136)
子ども用, 上絵, 桃太郎



飯茶碗(RD935.No.131)
子ども用, 上絵, 野球少年,
日章旗・旭日旗



飯茶碗(RD935.No.128)
子ども用, 上絵, 戦車,
日章旗・旭日旗



飯茶碗(RD935.No.132)
子ども用, 上絵, 有刺鉄線,
兵隊



蓋・碗(RD935,
No.183・086)ゴム印判



碗(RD935.No.615)手描き



碗(RD935.No.179)綠色釉



碗(RD935.No.179)茶色釉



湯呑(RD935.No.452)
銅版刷



湯呑(RD935.No.413)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.409)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.410)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.417)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.421)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.415)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.419)
ゴム印判



湯呑(RD935.No.419)
吹き絵



湯呑(RD935.No.462)
上絵



湯呑(RD935.No.506)
銅版刷, 「吉興酒店」「銘酒 日の丸」



湯呑(RD935.No.506)銅版刷,
「模範」「豊作」「東京 菅沼」



湯呑(RD935.No.475)
銅版刷,
「模範肥料製造元」
「東京 深川」
「合名会社菅口」



第5図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (2)



湯呑(RD935.No.470)
青磁釉,「貴茶化粧品」
「食料品銘茶」
「仙北組町」
「亀屋商店」



湯呑(RD935.No.464)
上絵,「九谷」



湯呑(RD935.No.465)
上絵,「不二陶器」



湯呑(RD935.No.458)上絵,
「老若男女勤儉誠行会」
「昭和二年三月十二日」
「謝功勞」贈 藤村勘次郎様



輪花皿(RD935.No.189)型紙刷



輪花皿(RD935.No.190)型紙刷, 蛇の目高台



皿(RD935.No.194)
型紙刷



皿(RD935.No.216)
銅版刷



皿(RD935.No.227)
銅版刷



皿(RD935.No.199)
銅版刷



皿(RD935.No.230)
銅版刷



皿(RD935.No.211)
銅版刷



皿(RD935.No.222)
銅版刷



皿(RD935.No.232)
銅版刷



皿(RD935.No.238)銅版刷



皿(RD935.No.239)
銅版刷



皿(RD935.No.246)
銅版刷



皿(RD935.No.247)
銅版刷

第6図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (3)



皿(RD935.No.255)
ゴム印判



皿(RD935.No.279)
ゴム印判



皿(RD935.No.276)
ゴム印判



皿(RD935.No.281)
ゴム印判



皿(RD935.No.286)
銅版刷・吹き絵



皿(RD935.No.288)
銅版刷・吹き絵



皿(RD935.No.295)
吹き絵



皿(RD935.No.300)
手描き



皿(RD935.No.301)
手描き



皿(RD935.No.322)
手描き



皿(RD935.No.304)
上絵



皿(RD935.No.302)
上絵



皿(RD935.No.309)
上絵



皿(RD935.No.320)
青磁釉, ゴム印判



皿(RD935.No.321)
青磁釉, ゴム印判



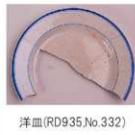
皿(RD935.No.325)
上絵, 「木津屋器油店」



洋皿(RD935.No.348)
上絵, 「日本陶器會社」
「NORITAKE」



洋皿(RD935.No.346)
上絵, 「東洋陶器會社」



洋皿(RD935.No.332)



洋皿(RD935.No.351)「HAND PAINTED JAPAN」



洋皿(RD935.No.359)



洋皿(RD935.No.360)

第7図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (4)



鉢(RD935.No.398)
ゴム印判



鉢(RD935.No.397)
ゴム印判



鉢(RD935.No.376)
ゴム印判,「吉祥」



鉢(RD935.No.390)
手描き



鉢(RD935.No.401)青磁釉,「泉山」
「米穀肥料商 岡寅 電話千百十七番」



鉢(RD935.No.377)上絵



并鉢(RD935.No.395)
手描き



軍盃(RD935.No.507)
上絵, 星, 桜



軍盃(RD935.No.508)
上絵, 日章旗・旭日旗,
金文字「口隊記念」



すず徳利(RD935.No.630)手描き



燗徳利(RD935.
No.515)手描き,
「西山精製」



軍盃(RD935.No.510)上絵, 旗・桜,
金文字「工八 凱旋記念」, 外面「意匠登録」

第8 図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (5)



火入れ(RD935, No.529)
型紙刷



仏具(RD935, No.543)
上絵



通徳利(RD935, 陶器No.022)
「濱藤本店」「<屋号>」「銘酒 岩手川」「一〇七」



手あぶり(RD935, No.556)型紙刷



汽車土瓶(RD935, 陶器No.051・052)「お茶」



「空羅折箱などを意の外へ
投げける事は危険ですから
こしかけの下にお置き下さるか
又はおへ欠損へ」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.151)手描き, 「有48」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.146)コム印判, 「瀬526」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.157)吹き絵, 「岐95」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.154)吹き絵, 「岐91」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.163)子ども用, 手描き,
「岐31」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.165)子ども用, 上絵,
「岐304」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.168)子ども用, 上絵,
「岐109」



統制陶磁器飯茶碗(RD935,
No.166)子ども用, 上絵,
「岐343」



統制陶磁器飯茶碗(RD935, No.152)コム印判, 「岐40」



統制陶磁器壺(RD935, 陶器No.026)
オリブ色絵, 「岐1077」



第9図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (6)



統制陶磁器湯呑(RD935 No.490)ゴム印判, 「岐381」

統制陶磁器湯呑(RD935 No.488)ゴム印判, 「岐452」

統制陶磁器皿(RD935, No.365)ゴム印判, 「岐488」

統制陶磁器皿(RD935, No.366)ゴム印判, 「岐318」

統制陶磁器皿(RD935, No.364)上絵, 「岐326」 「許27272」



統制陶磁器洋鉢(RD935, No.406)上絵, 「岐1056」 「許27280」



統制陶磁器洋鉢(RD935, No.407)上絵, 「岐口」 「許27285」



統制陶磁器小鉢(RD935, No.405)上絵, 「品123」



統制陶磁器小鉢(RD935, No.405)上絵, 「品123」



統制陶磁器洋鉢(RD935, No.408)上絵, 「許27282」



統制陶磁器軍壺(検出面.No.009)上絵, 鎧マーク, 軍壺, 「佐工徴用記念」 「佐藤」, 「岐201」



国民食器碗(RD935 No.170) 緑色二重線, 「ヤマカ陶器」 「岐143」



国民食器碗(RD935, No.171) 緑色二重線, 「岐406」



国民食器湯呑(RD935, No.487) 緑色二重線, 「岐391」



国民食器皿(RD935, No.363) 緑色二重線, 上絵, 「瀬253」



工場食器皿(RD935, No.254) 青色二重線, 「岩手」 「醫務附属醫院」



代用陶磁器化粧水瓶 (RD935, No.558) 「岐779」



代用陶磁器化粧クリーム一ム瓶(RD935, No.561) 褐色釉, 「岐870」



代用陶磁器化粧クリーム一ム瓶(RD935, No.564) 「岐682」



代用陶磁器化粧クリーム一ム瓶(RD935, No.056) 「シロ」 「岐1163」

第10図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代陶磁器 (7)



代用陶磁器化粧クリーム
瓶(検出面, No.011)灰軸



代用陶磁器化粧クリ
ーム瓶(RD935, No.559)



代用陶磁器化粧クリーム瓶
(RD935, No.560)「ウテナ」



代用陶磁器化粧クリ
ーム
瓶蓋(RD935, No.565)
「ネオパセロン」



代用陶磁器鍋(RD935, 陶器No.018)鉄軸, 「セ934」



代用陶磁器ヤカン(RD935, 陶器No.019)
鉄軸, 「<欠損>熱陶器湯沸実<欠損>」



代用陶磁器おろし金
左: (RD935, 磁器No.557)灰軸
右: (RD935, 陶器No.058)鉄軸



磁器製品
電球ソケット(RD935, No.004)「TECO」 「660W 250V」
コンセント(RD935, No.006)「TK」 「10A 250V」
ボタン(RD935, No.010)
玩具(タンス)(RD935, No.014)

[01 酒瓶]

高さ(26.5cm)



5cm

001(RD935.No.027)
ビール瓶(人工吹き)

高さ(4.2cm)



NIPPON BEER K1



005(RD935.No.016)ビール瓶(日本麦酒鉱泉)

TRADE MARK
DAINIPPON BREWERY CO LTD

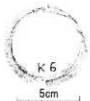


5cm

高さ(10.1cm)



ルーピラフサ SAKURA B



5cm

004(RD935.No.017)ビール瓶「サクラビール」

ルピソノリキ

ルピソノリキ 標商



003(RD935.No.002)ビール瓶「キリンビール」

高さ(24.7cm)



002(RD935.No.001)
ビール瓶(大日本麦酒)

高さ(20.5cm)



[01 酒瓶]

高さ17.3cm



NO DEPOSIT NO RETURN NOT TO BE REFILLED



006(RD935.No.003)ビール瓶(アメリカ製)

高さ(6.6cm)



007(RD935.No.021)
ビール瓶(アメリカ製)

高さ(3.2cm)



008(RD935.No.023)
ビール瓶(アメリカ製)

高さ(36.6cm)



高さ(14.0cm)

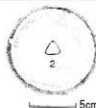


010(RD935.No.210)
清酒瓶(一升瓶,
人工吹き)

[02 清涼飲料瓶]



金線 金線



009(RD935.No.028)
清酒瓶(一升瓶)

高さ(10.3cm)



011(RD935.No.219)
清酒瓶(四合瓶,
人工吹き)



012(RD935.No.045)サイダー瓶
「金線サイダー」(金線飲料)

高さ(22.2cm)



KINSEN KIN SEN KINSEN

日本麦酒株式会社



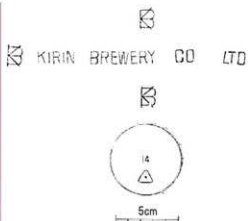
013(RD935.No.039)サイダー瓶
「金線サイダー」(日本麦酒株式会社)

[02 清涼飲料瓶]

高さ24.0cm



014(RD935.No.038)
サイダー瓶(麒麟麦酒)



[03 乳製品瓶]

高さ18.0cm



017(RD935.No.171)
牛乳瓶(人工吹き)

高さ(17.3cm)



018(RD935.No.172)
牛乳瓶(人工吹き)

高さ(8.6cm)



015(RD935.No.049)
みかん水瓶

高さ(8.4cm)



016(RD935.No.048)
ニッキ水瓶

高さ(25.3cm)



019(RD935.No.173)
牛乳瓶「三鈴話」

三鈴話



高さ19.5cm



020(RD935.No.052)
牛乳瓶「北辰社」「180c.c.」

全
北
辰
社



高さ19.8cm



021(RD935.No.053)
牛乳瓶「全乳」「一八〇瓦」「一合」

全
乳
一
八
〇
瓦



[04 調味料瓶]



関東カーレー工業組合指定標



高さ13.9cm



高さ14.9cm

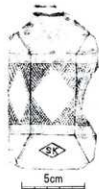


022(RD935.No.167)カレー粉瓶「ヒド」印カレー粉
(日賀志商店)

023(RD935.No.061)カレー粉瓶
「関東カーレー工業組合指定標」

024(RD935.No.060)
カレー粉瓶(ハチ形瓶)

[05 食品瓶] 高さ(13.6cm)



高さ11.4cm



高さ10.8cm



025(RD935.No.177)金平糖瓶

026(RD935.No.181)
食品瓶か

027(RD935.No.180)食品瓶か

[06 薬瓶]



Ⓓ

高さ13.3cm



高さ10.5cm



高さ8.8cm



高さ6.7cm



028(RD935.No.062)医療用薬瓶
「日本赤十字社岩手支部病院」

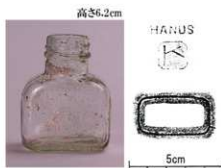
029~032(RD935.No.063・064・066・067)医療用薬瓶

第15図版 細谷地遺跡第41次調査出土近現代ガラス瓶 (4)

[06 薬瓶]



033(RD935.No.086)一般用薬瓶(全興連)



034(RD935.No.088)一般用薬瓶
「HANUS」「KATOマーク」



035(RD935.No.123)
軟膏瓶「メンソレータム」



036(RD935.No.092)目薬瓶「上池液」



全興
高橋
清浄水



全興
高橋
清浄水



039(RD935.No.097)
目薬瓶「大学目薬」か



040(RD935.No.098)殺虫剤瓶
「強力フマキラー液」(大下回春堂)

037・038(RD935.No.095・093)目薬瓶「清浄水」

[07 化粧瓶]



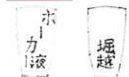
041(RD935.No.164)白粉瓶
「花王白粉」(脇田盛真堂)



042(RD935.No.111)
白粉瓶

[07 化粧瓶]

高さ9.4cm



5cm

043(RD935.No.087)

化粧水瓶
「ホーカ液」
(堀越喜太郎
商店)

高さ11.3cm



5cm

044(RD935.No.105)化粧水瓶
「レイトフード」(平尾賛平商店)

高さ11.5cm



5cm

045(RD935.No.099)化粧水瓶
「薬液ハルナー」(橋本ケミカル)

高さ11.4cm



5cm

046(RD935.No.101)
化粧水瓶(資生堂)

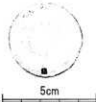
高さ5.8cm



047・048(RD935.No.112・114)化粧クリーム瓶
「レートクリーム」か

高さ5.8cm

高さ4.3cm



5cm

高さ3.4cm

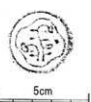


5cm

051(RD935.No.118)
化粧クリーム瓶
「ケンシ若肌クリーム」

052(RD935.No.115)
化粧クリーム瓶
「ウテナミルククリーム」

高さ6.1cm



5cm

049(RD935.No.120)
化粧クリーム瓶(資生堂)

高さ6.1cm



053(RD935.No.136)
化粧クリーム瓶

高さ3.8cm



5cm

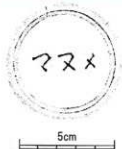
050(RD935.No.119)
化粧クリーム瓶(資生堂)

高さ5.1cm



054(RD935.No.135)
化粧クリーム瓶

[07 化粧品]



056(RD935.No.139)ボマード瓶「タカサ」

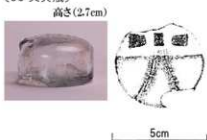


055(RD935.No.126)ボマード瓶
「メヌマボマード」(井田京栄堂)

057(RD935.No.104)整髪料瓶
「千代田香油」(山岸商店)

058(RD935.No.140)歯磨粉瓶
「潤製ライオン歯磨」(小林富次郎商店)

[08 文具瓶]



059(RD935.No.189)インク瓶(くつ形瓶)

060(RD935.No.144)インク瓶



064(RD935.No.188)
粉瓶か(人工吹き)

061(RD935.No.143)インク瓶
「セーラーダイヤインキ」



062(RD935.No.141)
インク瓶「サンエスインキ」

063(RD935.No.142)インク瓶
「ライトインキ」(鎌崎インキ製造)

065(RD935.No.147)
粉瓶か

066(RD935.No.148)
粉瓶か

第18図版 細谷地遺跡第41次調査出土近代ガラス瓶 (7)

[09 日常生活瓶]



067(RD935.No.151)
靴墨瓶「日靴塗聯」



068(RD935.No.162)染料瓶
「ゆきわ染」(雷輪化工)



069(RD935.No.161)染料瓶
「みやこ染」(桂屋)



070(RD935.No.159)染料瓶
「みやこ染」(桂屋)



071(RD935.No.160)染料瓶
「みやこ染」(桂屋)



072(RD935.No.163)染料瓶
(増井商店食紅)



073(RD935.No.165)
染料瓶



074(RD935.No.166)
染料瓶

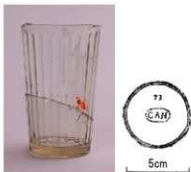


075(RD935.No.107)
オイル瓶か

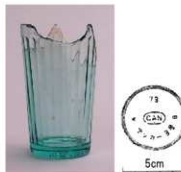
[ガラス製品]



アンカーコップ
(RD935,ガラス製品No.001)



アンカーコップ
(RD935,ガラス製品No.002)



アンカーコップ
(RD935,ガラス製品No.003)

高さ29.0cm



1 ビール瓶(人工吹き)
「エビスビール(輸出用)」
(大日本麦酒)

高さ29.1cm



2 ビール瓶(人工吹き)
「キリンビール」(ジャパ
ンブルー・カンパニー)

高さ29.5cm



3 ビール瓶(人工吹き)
「東京ビール」(東京麦酒)



高さ23.5cm



4 サイダー瓶「金線サイダー」
(金線飲料)

高さ16.0cm



5 みかん水瓶
(三段みかん形)

報 告 書 抄 録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんはくつちようさほうこくしょ 14						
書 名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書 第						
副 書 名	道明地区土地区画整理事業関連遺跡令和2年度発掘調査 細谷地遺跡						
編者者名	津嶋知弘						
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：盛岡市・盛岡市教育委員会）						
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600						
発行年月日	2021年12月15日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名(略号)	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)			
細谷地 (OHY)	岩手県盛岡市向中野 5・7丁目、字細谷地	03201	LE26-0214	39°40'42"	141°8'19"	41次：2020.7.7～7.21	776 土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
細谷地41次	集落	近世 近現代		廃棄土坑1		陶磁器、煙管 陶磁器、ガラス瓶、磁器製品、 ガラス製品	統制陶磁器
要約	盛南地区遺跡群は、平安時代初期の延暦22年(803)に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し、7世紀より続く大勢力「志波エミシ」が10世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。 本書掲載の細谷地遺跡は、盛南地区遺跡群内で第二の規模の古代集落である一方、遺跡南端部では近現代の「廃棄土坑」が多数確認されており、江戸時代末期の陶磁器、および明治～昭和の陶磁器やガラス瓶等がまとまって出土した。						

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅻ

— 道明地区土地区画整理事業関連遺跡令和2年度発掘調査—
細谷地遺跡

令和3年12月15日

編集 盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1

電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605

E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

URL <https://www.city.morioka.iwate.jp/>

遺跡の学び館

検索

発行 盛岡市・盛岡市教育委員会

印刷 株式会社 文協印刷

〒020-0835 岩手県盛岡市津志田15-35-5

